■ライオンズクラブ紹介パンフレット

この7月号には、『ライオンズクラブ　奉仕と友愛の心で結ばれた仲間』と題するパンフレットを同梱しました。

これはライオン誌日本語版委員会が、一般の方にライオンズクラブの概要を知って頂くためのツールとして、企画・制作したものです。

また、これに連動して、ライオン誌ウェブマガジンに、クラブの概要を書き込むためのテンプレート（Wordファイル）を用意し、ダウンロードして頂けるようにしました（thelion-mag.jp/downloads/template.doc）。

新会員招請のため、クラブとして戦略を立て行動して頂ければ、更に効果的だと思われます。パンフレットは、ライオン誌日本語版を購読されている、すべての会員の方にお送りしておりますので、ぜひご活用ください。

ライオン誌日本語版委員会

ライオンズクラブの主な活動（「献血推進活動」「アイバンク登録の推進」「視力ファースト」「ライオンズクエスト･プログラム」「災害救援」）を紹介

ライオンズクラブの歴史（「1917年の国際協会創立」「1945年国連結成会議」「1952年日本にライオンズ誕生」「1990年視力ファースト開始」「2007年NGO格付けで最高位」）を紹介

クラブの連絡先などを入れるための余白

中面では、「仲間と手を取りあい、奉仕のネットワークを世界へ」というキャッチ・コピーと共に、ライオンズクラブに加わることにより得られるものを挙げています。

「Activities：困っている人の力になれる」
　奉仕活動への参加による社会貢献

「Friendship：友情で結ばれた仲間を増やせる」
　職業や年齢、地域を超えた対人関係が広がる

「International：世界に広がる組織の一員になれる」
　ライオンズクラブの国際性を強調

「Ability：自分の中の能力を伸ばせる」
　自己研鑽の側面も持っていることをアピール

THE LION MAGAZINE IN JAPAN
July 2009, Vol.52 No.1

We Serve CONTENTS

2009年7月号　表紙
新潟県高柳町
荻の島環状集落
写真／鈴木秀晃
■詳細はウェブマガジンで
https://www.thelion-mag.jp

不況が深まる中でこそ、更なる奇跡を起こす時

世界経済が好転するまで、大勢の人々、特に貧困層が苦しみます。これはライオンズにとって何を意味するのでしょうか。それは更に多くの人々に奉仕をする機会だということです。イ・ミョンバク韓国大統領が最近私に言いました。「ライオンズはこれまでにもまして必要とされている存在」なのだと。

私たちが直に携わる労力奉仕は、こうした危機においてとりわけ重要です。ライオンズは困っている人々の暮らしを向上させるために、お金にだけ頼るのではありません。時間と労力を捧げます。私たちは本気で奉仕に取り組み、前向きな変化をもたらすために必要なことをするからこそ、社会に役立っているのです。リストラが進み、物事に対する期待が薄れる一方のこの時代にあって、社会を支援する私たちの立場はとてもユニークなものです。

ライオンズの大きな強みの一つに柔軟性があります。社会の変化に応じてクラブの着眼点を変えるのです。今は新しい事業に目を向ける時かもしれません。過去を参考にはしても未来を束縛することなく、ライオンズは、地域社会が今、必要としていることに焦点をシフトすれば良いのです。

クラブは社会のニーズに応えるために活動するだけでなく、会員のニーズに合わせてクラブの在り方を調整することも出来ます。場合によっては例会の回数を減らしたり、会員の多忙な日常がもっとゆとりのあるものとなるように、見直すべき長年の慣習もあるかもしれません。協会の規定の範囲内で、独創的にそして柔軟性をもって対応してください。改善のための変化は、受け入れる価値のある変化なのです。

私たちが奉仕で奇跡を生み出すには、善意と誠実さを持って事業に取り組むだけでは十分ではありません。明確な目的を持って賢く行動する必要があります。私たちは思いやりに加え、能力があります。私たちが1917年以来発展を続けているのは、決して偶然ではなく、どうやって物事を成し遂げるかという道筋を見いだせるからなのです。

ですから、情熱を持って果敢に、そして賢く奉仕してください。ライオンズの奉仕が呼び起こす奇跡は、一つひとつのクラブ、そして一人ひとりのライオンの優れた資質に掛かっています。すべてのライオンズ会員が奉仕の使命を担っています。皆さんは社会のヒーロー、人知れず隣人を助け、地域をより住みよい場所に変えている人たちです。これからも活躍を期待しています。皆さんは奉仕ですばらしい奇跡を起こし続けるに違いありません。

Al Brandel

2008-09年度国際会長
アルバート･F･ブランデル

THEME 例会

**ライオンズ活動はまず例会出席から始まる。
「クラブの最高議決機関」であると共に、仲間が集い親交を深める場でもある例会。
会員が有意義に感じ、あるいは楽しい時を共有する例会にするためにはどうしたらいいのか。
クラブの取り組み事例を紹介する。**

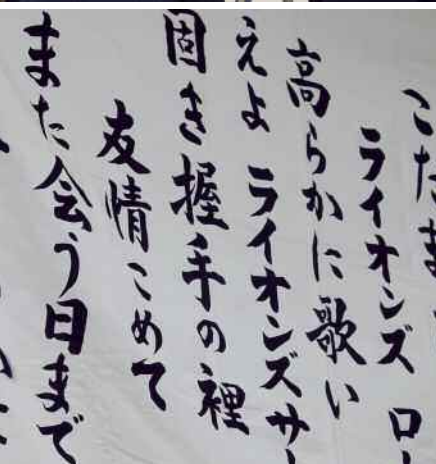
クラブの実力は例会に表れる

〜「楽しい例会」とその効用〜

なぜ例会出席が重要なのか

毎年、多くのクラブ会長が「楽しい例会」を年間の目標に掲げ、出席率アップに頭を悩ませる。42年前の本誌に「楽しい例会に関する11章」という連載記事があった。第1章のタイトルは「例会は楽しいか、楽しくないか」。まさに永遠のテーマと言えそうだ。なぜ、それほど重要視されるのだろうか。

クラブの最高決議機関だから、会員の義務だから、どちらもイエスだが、それだけではない。奉仕と友愛を標榜するライオンズにとって、例会はクラブの活力を測るバロメーターだ。

出席率が高く、例会に活気のあるクラブは、組織が十分に機能を果たし、調和がうまく取れていて、会員の関心度が高く、アクティビティも活発だと考えて、まず間違いない。もし急激に出席率が落ち込むようなことがあれば、クラブはどこかに深刻な問題を抱え、緊急に対応を必要としているに違いない。「逆もまた真なり」で、例会を楽しいものにすることで会員の参加意識を高め、クラブに活力を取り戻すことも可能ではないだろうか。

写真／田中勝明

●東京渋谷ライオンズクラブの5月第1例会を訪問し撮影にご協力頂いた。
この日の次第は、開会のゴング／国歌並びにライオンズクラブの歌斉唱／会長あいさつ／お誕生日祝い／（ここから食事タイム）幹事報告／メンバー・スピーチ／テール・ツイスター・タイム／出席率の発表／ドネーションの発表／また会う日まで斉唱／閉会ゴング。
例会日：第1・3木曜日12:30～13:30
例会場：渋谷エクセル東急ホテル

型あって型なきごとく

「楽しい例会」とはどんな例会だろうか。あるクラブはタイムリーな話題を提供するゲスト・スピーカーを招請し、またあるクラブは工夫を凝らした食事で出席者の目と舌を楽しませるなど、さまざまに知恵を絞っている。要は出席者が参加して良かった、有意義だったと思うかどうか。単調で何ら刺激もなく、だらだらと続く会では、会員を例会から遠ざける原因となる。

前述の連載の第2章には、後に国際会長となる故村上薫（当時元地区ガバナー）による寄稿で、アメリカの例会の模様が紹介されている。題して「型あって型なきごとく」。

視察で訪れたセントポールでクラブ例会に招かれた時の印象を、次のように記している。1949年、日本にライオンズが誕生する3年前のことだ。

「何とそのクラブのにぎやかなこと。（中略）何という開放的な、何という人間味まる出しの人たちの集まる会であろうかと、私はその時の感想をいまだに忘れることが出来ない」

その後、ライオンズ会員となって訪問したアメリカのクラブ例会ではどこでも同じようなムードを感じたという。スピーカーに対して、次から次へと立ち上がっては質問する。形は整然としているが、食事が始まると途端にあちこちで談笑の渦。締まるところはカッチリと、ごく自然に締まって、機知に富んだ例会運営はほれぼれするばかり。「全くクラブを自分のものとして身近に、ハダに感じて運営している。このゆとりと弾力、緊張と弛緩、形式と無形式、これら相反する要素がほどよく調和を保って、例会を楽しく、そして意義あるように計画し運営している」

国民性の違いと言ってしまえばそれまでのこと。だがこれこそ、活気ある楽しい例会風景ではないだろうか。

さて、あなたのクラブの例会は？

（文／河村智子）

例会は生活のリズムの一つ

錦戸光一郎（宮城県・仙台エコー ライオンズクラブ）

●1928年10月生まれ。58年、仙台ライオンズクラブに入会し、62年仙台エコー ライオンズクラブチャーター・メンバー。80年度332複合地区協議会議長、332-C地区ガバナーを務め、82、85、86年の国際大会では地区ガバナー・エレクト・セミナーのグループ・リーダーとして指導に当たった。本年5月の第2例会で例会出席1229回を数えた。年3〜5回ほどはメークアップ出席となるが、その際も出来るだけ、他クラブの例会を訪問している。「勉強になりますから」と。

51年間休まず続ける例会出席

1958年（昭和33年）3月、ある会の仲間の先輩方から勧められ、仙台ライオンズクラブへ入会しました。「ある会」とは、仙台ワイズメンズクラブと仙台ボリューム会という会です。ワイズメンズクラブとはYMCAをサポートする国際的クラブ、仙台ボリューム会とは在仙の60キロ以上の体重を持った人が入会資格のあるユニークな会で「『デブ』に悪人なし」とか、「太っている人は心が広く愉快な人が多い」とか勝手な理屈をつけて、主として商店主や実業家がメンバーでした。お誘いを頂き、ライオンズクラブとはどういうクラブか分からないままに入会致しました。

入会してみると私以外は全員50歳以上のそうそうたる方ばかりで、29歳の若造はただオロオロするばかりでした。それでも一生懸命、先輩方の言うことを聞いて真面目にクラブ活動に参加し、例会も入会以来一度も休まずに出席し続けました。

とうとう今日まで51年間、例会出席1229回を数えるまでになりました。ここまで来られたのも、諸先輩のご指導、家族の理解、私自身が健康に恵まれたこと等のおかげと周りの方々に心から感謝しているところです。

「イチャモンクラブ」の楽しい例会

思い起こせば私の入会した1958年は『ライオン』誌日本語版発刊の年であり、7・8月合併の創刊号が出されました。それまでは月遅れの英語版を辞書と首引きで読んだり、要約された地区会報を読んでいたのですからその喜びようは大変なものでした。その創刊号のアクティビティ紹介に、仙台ライオンズクラブが写真入り（私も写っている）で載っていたのが何よりも嬉しく、クラブ・メンバーがこぞって一層の奉仕活動への精進を誓ったものでした。

4年後、初代幹事として、現在在籍している仙台エコーライオンズクラブに転籍しました。「エコー」つまりは「打てば響く」若々しいクラブということで、チャーター・メンバー35人、平均年齢35歳での発足でした。今でも初代会長・故ライオン嘉藤亀鶴（弁護士）がクラブを結成さ

名札はライオンズ・マークをあしらった仙台箪笥に収められている。例会場に着くと、各自で名札を取り出して着席。例会までは和やかな懇談のひと時

●仙台エコー ライオンズクラブの5月第2例会。
開会のゴング／国旗に敬礼／国歌斉唱／ライオンズクラブの歌／ライオンズの誓い／ゲスト・ビジター紹介／お誕生日祝い／100%出席タブ・アワード授与／委員会報告／幹事報告／メンバー・スピーチ／テール・ツイスターの登場／本日のスピーチ／また会う日まで／ファイン・ドネーション・出席率の発表／ライオンズ・ローア／閉会ゴング。
例会日：第2・4木曜日12:15〜13:30
例会場：ホテルサンルート仙台

写真／河村智子

れた精神は脈々と受け継がれております。ライオン嘉藤は型にはまらない大変ユニークな方で、クラブ運営についてたくさんのご指導を頂きました。

中でも際立っているのは、例会等において「何か提案された時は、特別な理由がない限りまず反対すること」と言われました。これにはクラブ員一同驚きました。普通なら何か提案がなされたらすぐ拍手で「シャン・シャン・シャン」と賛成可決されるのが常ですから。さあそこが我がクラブの面白いところ、提案に対して必ず反対意見が出される。これはただ反対のための反対ではなく、もっと別の良い考え、良いアイデアがあるはずということです。「提案に対してただ賛成してはいけないよ」というライオン嘉藤の教えでした。反対するには反対するなりに、自分も真剣に勉強しなくてはならないからです。爾来、我がクラブは「イチャモンクラブ」というニックネームを頂き、自他共に許しているわけです。そのように委員会、理事会、例会の場を経て決められたことには、もちろん全会員が協力します。「反対！」と唱えて議論を交わす、そんなやり取りも例会を楽しくさせる方法の一つなのかもしれません。

ライオンズ会員の誇りを胸に

例会は、私の生活のリズムの一つです。入会したからには例会に出席するのは当然ですが、これがなかなか実行出来ないのが常です。私の場合、西も東も分からない若い時に、「例会は休まず出席するものである」と心に決めて実行出来たことが良かったと思っております。予定を組む時、まずは月2回の例会をスケジュールに入れてしまえばいいだけの話ですが、その通りにはいかないのが現実でしょう。あとは当人の考え次第です。ただ一つ、やはりライオンズクラブ会員としての誇りを持つということを基本に考えていきたいものです。

メンバー・スピーチは地区年次大会の報告。代議員会と決議事項の説明に皆真剣に聞き入った。この日のライオンズ・ローアはライオン錦戸

大久晃功会長から51年間100%出席タブ・アワードが授与された。他にも5人に47年間出席タブ・アワードを贈呈

出席率をアップさせ有意義な例会を

全国クラブに見る例会の工夫

ライオンズクラブが活発に活動していくための核となる例会。
「例会出席は会員の義務」とは、誰もが耳にタコが出来るほど聞いているはず。
それなのになおかつ出席率向上が声高に叫ばれるのは、自然に任せていて実現出来るほど、簡単ではないからだろう。
そこで、例会の意義を高めるために全国のクラブが行っている工夫を聞いた。
ここで紹介するアイデアの中からあなたのクラブでも出来そうなものを見つけ、ぜひ試してみて頂きたい。

誘い合い助け合って例会へ行こう！

三重県・津ライオンズクラブには、会員同士が誘い合って例会に出席する「バディ・システム」という方法がある。例えば、多くの新会員は初めの頃はなじみの顔が少なく、ライオンズの慣習にも慣れていないため、例会に出てくるのも気後れしがちだろう。そこで、スポンサーを中心としたメンバーたちが、彼らを誘って例会に行くようにしている。また、高齢の会員や運転が出来ない会員を、例会場まで自家用車を利用する会員が迎えに行く。ちょっとした助け合いや気遣いで、誰もが例会に出やすくなるものである。

高知県・土佐ライオンズクラブでは会員52人を7班に分け、「出席連絡班」を形成している。各班ごとに班長が責任を持って班員の例会出欠を確認するシステムである。班は1年ごとに再編成され、班長は2カ月交代。大半が班長を経験するので各自が主体的に班に協力するようになる。更に面白いのは、この班はアクティビティでの役割分担など、例会出欠以外にも活用されること。年間を通じて行動を共にし、班内

例会食拝見①

●331－B地区／北海道・名寄ライオンズクラブ（第1・3金曜日12時15分～13時30分／グランドホテル藤花）

●331－C地区／北海道・白老ライオンズクラブ（第1木曜日12時15分～13時15分・第3木曜日18時30分～19時30分／しらおい経済センター）

の結束が強まっていく。ひいてはそれが、クラブの強化につながるというわけ。

クラブ活性化について話し合った結果、例会の見直しに着手して成功を収めているのは、兵庫県・春日ライオンズクラブ。出欠届けの提出を徹底し、欠席理由によっては会長、幹事、出席委員長が会員を説得して出席を促す。ただし、それぞれの事情を把握した上で、例会を負担に感じることのないように気を配ってもいる。これを続けるうちに会員の中に例会出席義務を全うしようという意識が高まり、円滑な意思の疎通と融和が生まれたという。

福岡県・久留米中央ライオンズクラブは年に2回、クラブ結成記念日とチャーター・ナイト記念日を「出席100％の日」と定めている。万難を排して例会に出席すべき日だ。早い時期から周知を開始し、前日にも「明日は例会です」という連絡を入れる。結果、この日だけでなく年間を通じて出席率がアップした。

例会を楽しむ

さあ今日も仲間が会場にやってきた。これから始まる例会本番を、有意義かつ友好を深める楽しいものにしよう。メンバーがそんな情熱を傾けて作り上げている例会を紹介しよう。

新潟県・長岡悠久ライオンズクラブの計画・接待委員会は、毎回の例会の企画に心血を注ぐ。食事の材料には農家を営むメンバーが作る無農薬野菜や、地元の長岡野菜を使う。駅弁や丼飯各種、世界の味巡り、日本の味巡りなど、年間を通じたテーマを設け、例会場となっているホテルの厨房と相談しながらメニューを決めていく。

委員会から指名を受けたメンバーによるパフォーマンスもある。練習を重ねたビリーズブートキャンプ、クイズ番組のアレンジ、指導員を呼んで市創作の「ハッピー体操」、先日は長岡市内の5クラブを巻き込んで各3役が「ヤジマ美容室」を熱演した。

そんな長岡悠久ライオンズクラブを、2004年10月、新潟県中越地震が襲った。この年は夏のうちから、12月に披露する予定のマツケンサンバを汗だくになって練習していた。保留になっていた発表が出来たのは翌3月。「力を合わせてがんばろう、という気持ちを込めた踊りは、そのまま巡業に出られるほどの出来でした」（クラブ事務局員談）。

●332・C地区／宮城県・仙台グリーンライオンズクラブ（第1・3火曜日18時30分～20時00分／ホテル仙台プラザ）

●332・D地区／福島県・白河小峰ライオンズクラブ（第2・4火曜日19時00分～／鹿島ガーデンヴィラ）

仲間と集える大切な機会を皆で盛り上げて、エネルギーの源にしようという強い意識が伝わってくる。

長野白樺ライオンズクラブでは年間24回の例会ごとに、担当委員会を設けている。2カ月ほど前から準備をスタートさせる。数ある企画の中でも特に好評を博すのが、会員による「リレー・スピーチ」。挙げられたお題について、自分の知識や経験を話しながらリレーしていく。「ゴルフの珍プレー・好プレーについて」とくれば、ネタは汲めども尽きぬ泉のようにわいて出る。御開帳を翌年に控えた「善光寺について」というお題もあった。地元の文化についての造詣を深めることを目的に、委員会メンバーがリレーに臨んだ。皆よく聞いてくれたし、時には笑いも取れたのだが、いっそ全員でリレーすることにすれば皆が勉強したのになあ、という反省もあったそうだ。

三重県・伊賀上野ライオンズクラブの例会では、ソング・リーダーが活躍している。クラブ結成当時、「ライオンズクラブの歌」を覚えるために、市内の音楽関係者にピアノを弾いてもらいながら指導を受けたのが始まりだ。今では例会後にも、生ピアノを伴奏に皆で歌を歌う。小学校唱歌や演歌もレパートリーに入れて和気あいあい。元会員の作った切り絵入り歌詞カードがアクセントを添える。

例会欠席者への対応

例会を欠席した会員に対する気配りの例。

茨城県・日立中央ライオンズクラブは例会の場で、欠席した会員から預かったメッセージを紹介することで、不在である会員にもクラブの中での居場所、つながりを作り出している。これにより、次に出席する時に敷居の高さ、気まずさを緩和することが出来る。

例えば病気の治療を終えて久しぶりに出られた時など、メッセージではなく「実物」にあいさつをしてもらうことで、喜びと歓迎の雰囲気に満ちたすばらしい例会になるという。

同クラブではまた、例会報告書にも工夫を凝らす。欠席した会員が次は出たくなるように、皆に出席してほしいという気持ちを込めて、楽しい例会の様子を伝える。例えば家族同伴のバーベキュー例会で子どもたちがおいしそうに食べる様子、クリスマス例会でサンタに扮したメンバーの話、お楽しみオークションの予告、ライオンズ・デーでの出来事などだ。

例会食拝見②

●333・C地区／千葉県・松戸ユーカリライオンズクラブ（第1・3木曜日19時00分～20時30分／ナプシャルズ日本閣柏）

●333・E地区／茨城県・大洗ライオンズクラブ（第1・3水曜日12時15分～13時30分／水戸信用金庫大洗支店3階）

石川県・金沢菊水ライオンズクラブでは、3回欠席が続いた会員に、季節のあいさつと季節感のある絵を手描きで添えた、例会への誘いのはがきを送る。気軽に出てきてほしいという気持ちだ。その効果があって、会員は出席するようになるし、そうでない場合も感謝とねぎらいの手紙が届いたりするそうだ。

例会欠席者からペナルティとして金銭を徴収するクラブもある。無断欠席の場合、前日以降の連絡の場合、遅刻や早退も含め幾つかの基準が設けられている。

支払い方法は、欠席ごとにファインあるいは自主的なドネーションとして現金を拠出するクラブもあるし、予め何枚綴りかのチケットを購入し、欠席の内容に応じて必要枚数のチケットを切る場合もある。チケットは欠席専用のもの、テール・ツイスター・タイムでのファインと共用出来るものなど、クラブによってさまざまな工夫がある。

この際重要なのは、ペナルティを課すのはあくまで会員が例会出席の必要性を認識するための手段であるということ。強制ではなく、クラブ全体のコンセンサスを得て行われる必要がある。そのために、これらのペナルティを設けている各クラブでは、疑問が生じればその都度話し合い、規則を改定するなど、注意を傾けている。

また、例会当日に出席出来ない会員には、出来るだけ早い段階でメーク・アップの案内をして、これを遂行出来るようにするのが良いだろう。

例会を充実させて価値を高めること、例会の重要性を会員が認識すること、会員同士のつながりを強めフォローし合って例会出席率を上げること、これらは互いに作用し合って成り立っている。あなたのクラブで出来ることを見つけて、まず着手してみよう。その効果は1点に止まらず波及していくだろう。

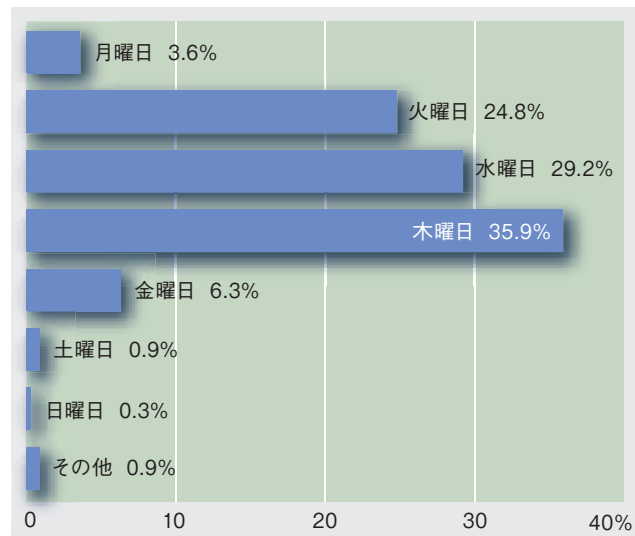
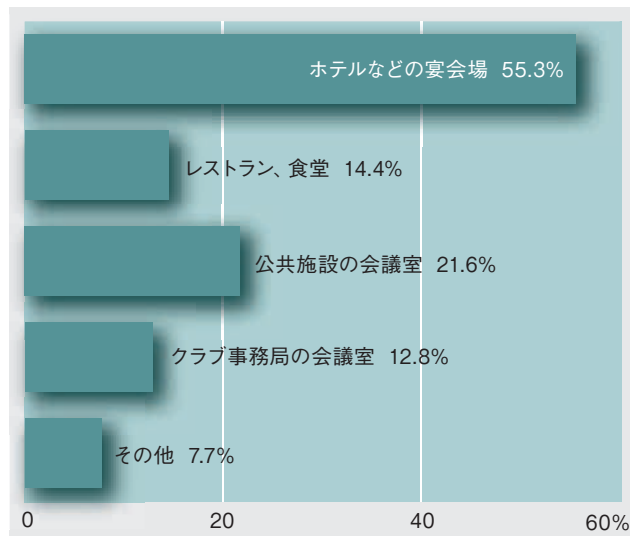
●334・A地区／愛知県・名古屋北ライオンズクラブ（第2・4金曜日12時15分～13時30分／名古屋東急ホテル）

●334・B地区／岐阜県・各務原クローバーライオンズクラブ（第1・3火曜日12時15分～／ステラ・ルーチェ）

回答率：44.9%

調査機関：
ライオン誌日本語版事務所

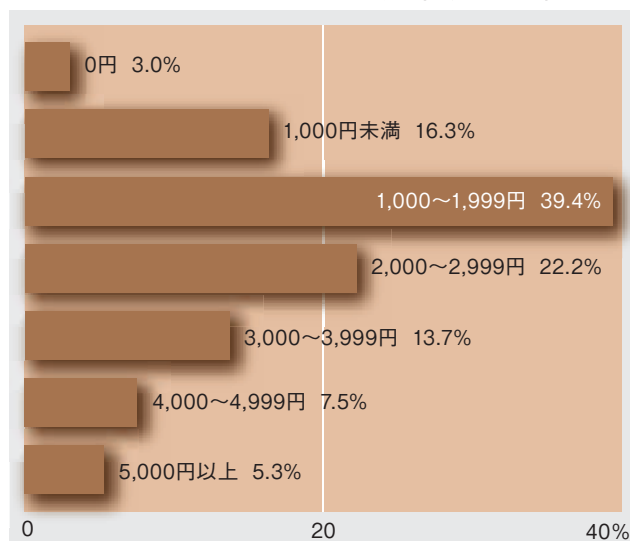
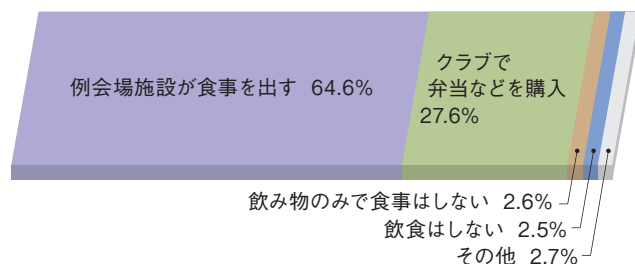
クラブ例会に関するアンケート

●例会の開催曜日（複数回答可）

●例会の会場（複数回答可）

●例会の時間帯

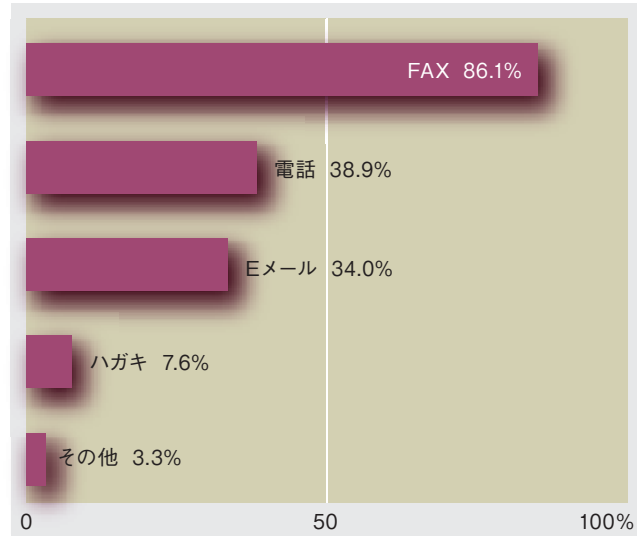
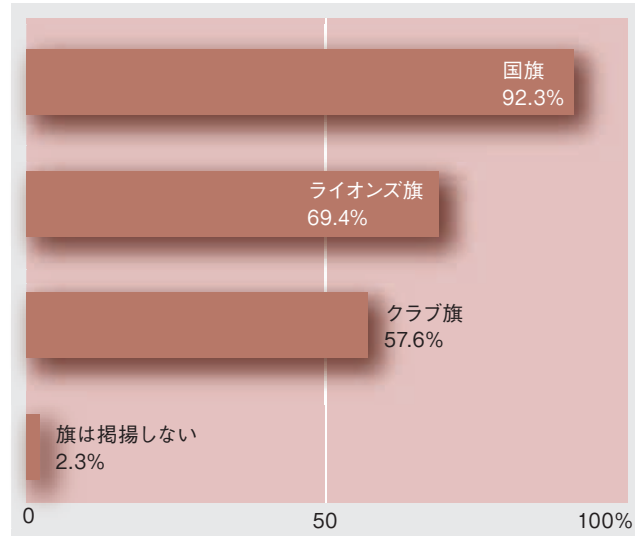
●例会での飲食について

●通常例会で1回1人当たりの例会食費（複数回答可）

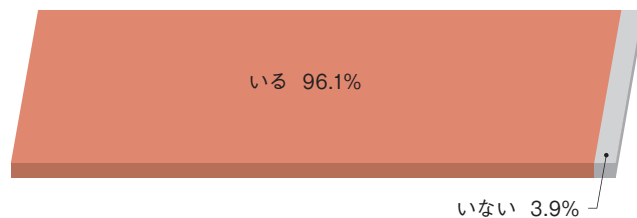
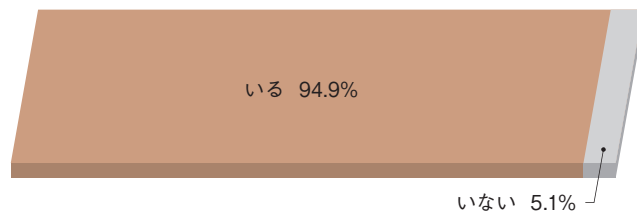
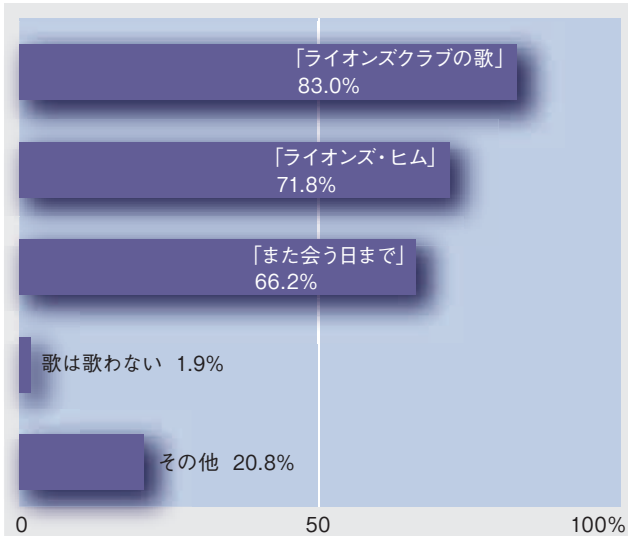
例会食拝見③

●334－C地区／静岡県・浜松南ライオンズ（第1・3金曜日19時00分～20時30分／グランドホテル浜松）

●334－C地区／静岡巽ライオンズ（第2・4木曜日18時30分～20時30分／ホテルアソシア静岡ターミナル）

調査時期：2009年4月25日〜5月15日　調査対象：全国3,358クラブ　回答数：1,508クラブ

●例会出欠の確認方法（複数回答可）

●例会で掲揚している旗（複数回答可）

●テール・ツイスターの役職の有無

●ライオン・テーマーの役職の有無

いる 94.9%
いない 5.1%

●例会で歌う歌（複数回答可）

●335-D地区／兵庫県・姫路白鷺ライオンズクラブ（第1・3水曜日12時30分〜／姫路商工会議所）

●334-D地区／福井県・敦賀みなとライオンズクラブ（第1・3木曜日12時10分〜13時00分／サンピア敦賀）

覚えておきたい例会に関するライオンズ用語

例会で耳にするライオンズ用語の数々。いまいち意味が分かっていないという方はもちろん、よく知っている方もこの機会にぜひ復習を。

【役職・用語】

●**ゲスト・スピーカー＝Guest Speaker**
　クラブ例会に招かれて講演、スピーチを行う会員以外の人物。会員がスピーチを行う場合は、メンバー・スピーチと呼ぶ。

●**出席委員会＝Attendance Committee**
　会員がすべての会合に100％出席することを目指して活動する委員会。例会日を忘れないようにハガキを出したり、例会を楽しくするために、ラッキーカードなどを用意するのもこの委員会である。

●**ソング・リーダー＝Song Leader**
　例会や各種催しでライオンズ・ソングなどの歌を参加者が気楽に歌えるように音頭を取る会員。日本のクラブでは、国歌と、「ライオンズクラブの歌」「ライオンズ・ヒム」のいずれか、閉会時に「また会う日まで」を歌うのが一般的。中には独自のクラブ・ソングを持ち、歌っているクラブもある。

●**チャーター・ナイト＝Charter Night**
　認証状伝達式。チャーターの伝達は地区ガバナーが国際協会を代表して行うのが通例。クラブは毎年、チャーター・ナイト記念会を開き、ライオンズの目的や道徳綱領、クラブの歴史を再確認する。

●**テール・ツイスター＝Tail Twister**
　クラブ役員の一人。直訳すると「尻尾をひねる者」。例会などの会合でゲームや余興など種々のアイデアによって会合を盛り上げ、会員間の親睦を図る。会員にファインを課す権限が与えられている。1998年から設置は任意となった。

●**ドネーション＝Donation**
　会員の慶事、誕生、結婚、入学、新築、病気快癒や、弔意、見舞いなどに対する謝礼、その他の意をもって、会員が自発的に行う献金のこと。金額に制限はない。テール・ツイスターはいろいろな事実を紹介して、会員がドネーションを行うのを助ける。ドネーションは原則として事業資金に繰り入れる。

●**ビジター＝Visitor**
　クラブ例会を訪問した他クラブの会員。参加した例会の例会費を支払う。メーク・アップの場合は欠席した自クラブの例会費をこれに振り替えることが出来る。

●**ファイン＝Fine**
　例会その他の会合において、その場の空気を沸き立たせ会員相互の親睦を図る目的で、テール・ツイスターによって課せられる罰金。クラブ会則標準版によると、1回のファインはクラブ理事会で定める額で、同一例会で同一会員から2回を超えて課せられない。ファインは運営費に繰り入れる。

●**メーク・アップ＝Make up**

例会出席は会員の義務だが、どうしても出席出来ない場合、例会日の前後それぞれ13日間以内に一定の条件を満たせば出席と見なす、出席メーク・アップ規則を設けている。

●ライオン・テーマー=Lion Tamer

クラブ役員の一人。直訳すると「ライオンの調教師」。クラブ諸備品の整備、保管、会場設営などの職責がある。会合中は会場の秩序を維持し、必要な印刷物や記念品などを配布する。新会員が早くクラブに馴染めるように席順などにも気を配る。2002年から設置は任意となった。

●ライオンズの誓い

「われわれは知性を高め、友愛と相互理解の精神を養い、平和と自由を守り、社会奉仕に精進する」。1960年、第6回年次大会で採択された。新会員は入会式でこの誓いを宣誓する。

●ライオンズ・ローア=Lions Roar

ライオンズの雄叫び。会議の眠気や疲労を一掃するため、議事を中断し、全員起立、両手を前方水平に突き出して「ウォーッ」とやったのが始まりとされる。例会プログラムの一つにしているクラブもある。

●ロバート議事規則=Robert Rules

ライオンズクラブにおけるあらゆる議事の進行はロバート議事規則に基づく。アメリカの将軍、ヘンリー・M・ロバートがアメリカ議会の慣習を中心に議事進行規則を集大成、成文化したもので、定足数順守、多数決、少数意見尊重を原則とし、会議における発言、議長の権限、討議の方法などが定められている。

【例会関連グッズ】

●ガベル=Gavel

槌。ゴングを鳴らすために用いる。議長の権威を象徴するもの。国際会長就任式では、前会長から新会長へ指輪とガベルが引き継がれる。

●ゴング=Gong

例会開始と終了を告げる鐘のこと。元来は例会での勝手なおしゃべりを注意し、鐘を打ち鳴らして静めるためのもの。

●バナー=Banner

正式クラブ旗。各クラブの創意工夫で作られるテーブル・バナー及びフレンドシップ・バナーもバナーと呼ばれる。国内外の他クラブとの友好親善を目的に交換する習慣がある。

●パッチ=Patch

バナーに付ける布。クラブを顕彰するために国際協会から交付される。チャーター・アニバーサリー・パッチなど各種ある。

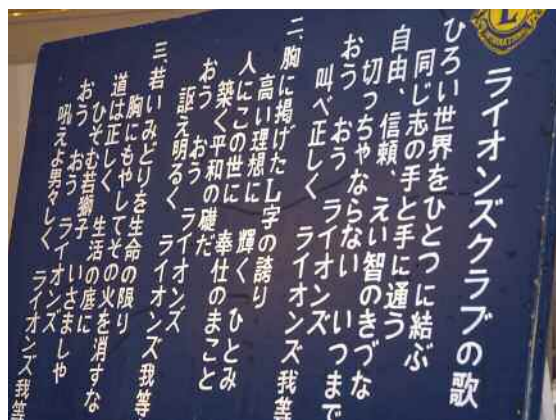
●ラペル・ボタン=Lapel Botton

襟章。ラペル・ピンあるいはライオン・バッジと呼ばれる。襟の折り返し部分(ラペル)に付けるライオンズの正章。一般会員用、クラブ役員用、地区役員用などがある。例会で付け忘れていたらファイン、というのはテール・ツイスターの常套手段の一つ。

【ライオンズ・ソング】

●ライオンズクラブの歌

藤浦洸作詩、小関裕而作曲による日本ライオンズ独自の歌。1959年、京都で開催された第5回年次大会で披露されてライオンズ・ソングと制定。

●ライオンズ・ヒム=Lions' Hymn

アメリカの会員、ジョセフ・M・テインケル作詞、フランシス・H・バクスター作曲。葛野作太郎(兵庫県・神戸ライオンズクラブ)訳詞。「ライオンズクラブの歌」と同じく、第5回年次大会でライオンズ・ソングと制定された。

●また会う日まで=Till We Meet Again

原曲はレイモンド・イーガン作詞、リチャード・ホワイティング作曲で1918年に発表された。離ればなれになる兵士と恋人の歌で、第1次世界大戦下で大ヒット。51年のミュージカル「オン・ムーンライト・ベイ」ではドリス・デイが歌っている。そのワルツのメロディーにジェリー・S・ジャクソンがライオンズ版の歌詞をつけた。訳詞は「ライオンズ・ヒム」と同じく葛野作太郎。

2009-10年度

地区ガバナー紹介

第92回ミネアポリス国際大会で地区ガバナーに就任される各地区ガバナー・エレクトの皆さんに、新年度に向けての抱負、方針、重点課題などについて原稿を頂いた。略歴は所属クラブ、ライオンズ入会年、主なライオン歴、職業、就任時の年齢の順(略語:CM=チャーター・メンバー　RC=リジョン・チェアパーソン　ZC=ゾーン・チェアパーソン)

District 330-C　金子　義人

かねこ　よしと：埼玉県・浦和東ライオンズ。82年入会。91年度クラブ会長。96年度ZC。03年度RC。㈱富士総業代表取締役。66歳。

1、会員増強。2、青少年健全育成（交通対策、「ダメ。ゼッタイ。」運動）。

「一期一会」。私はメンバー各位を大切に、何事もキャビネット全役員、各クラブと密接な連携を持ち、地域社会における奉仕活動を通して「誇りと情熱への挑戦」に向かって努力致します。

今日までの誇るべき功績と、新たな感動を目指す情熱を持って強い絆を築き、ライオンズ・スピリットの再確認を視野に、目標達成のために全力で邁進する所存です。クラブ、地区、そして協会の発展のためご協力お願い申し上げます。

District 330-A　岡野　忠生

おかの　ただお：東京日本橋ライオンズ。93年東京八丈島ライオンズ入会。04年転籍。98、05年度クラブ会長。02年度ZC。03年度RC。八丈方有㈱代表取締役。63歳。

「大切な友達を仲間にしよう」。「妻に子どもに社会に誇れるライオンズの品格を取り戻そう」。会員増強がライオンズクラブにとって最大の課題と言われ続けていますが、メンバー減少に歯止めが掛かりません。なぜ自分の大切な人をクラブに招請出来ないのでしょうか。所属クラブの現況をしっかりと把握し、メンバー全員で将来のあるべき姿を明確にイメージする作業から始めることが大事だと思います。内容のある奉仕活動、やりがいのあるクラブになれば、メンバーが自信を持ち友達を招請出来るようになると確信しています。

District 331-A　伊藤　信賢

いとう　のぶかた：北海道・札幌中島ライオンズ。84年入会。96年度クラブ会長。99年度ZC。07年度RC。伊藤信賢法律事務所所長。64歳。

ガバナー・スローガンは「奉仕の心で未来を開く」としました。近年の世界的不況でライオンズを取り巻く環境は厳しく、皆、閉塞感の中で明日を模索しています。アメリカに発した金融危機、我が国でも偽装取引、オレオレ詐欺など人の信頼を踏みにじる行為が蔓延。「人のために尽くす心」が忘れられています。今こそライオンズの「奉仕の心」を、活動を通じて世界に知らしめなければなりません。また、会員増強にはクラブ内の財政改革を断行して入会しやすい環境を作ることを中心に、諸活動の強化を図りたいと思います。

District 330-B　渡辺　和廣

わたなべ　かずひろ：山梨県・甲府シティライオンズ。78年甲府西ライオンズ入会。94年転籍CM。99年度クラブ会長。02年度ZC。06年度RC。柳町法律事務所弁護士。57歳。

ライオンズを取り巻く厳しい環境の中、地区ガバナーとして会員増強、指導力育成、クラブ運営合理化等の支援により、各クラブの人的・物的な基盤の強化を図り、奉仕活動の主体であるクラブが活性化し、地域社会で存在感が増すよう努力を傾注します。クラブ活動を担うメンバー一人ひとりが、世界的な奉仕団体の一員として誇りを持てることがライオンズクラブ永続の鍵と考え、ガバナー・テーマを「誇りと存在感で未来につなぐ」、サブテーマを「すべては一人のライオンから」とし、1年間行動していきます。

District 331-B　津田　勝美

つだ　かつみ：北海道・旭川ライオンズ。64年入会。77年度地区幹事。84年度ZC。85年度クラブ会長。北海道地図㈱代表取締役。79歳。

未曽有の経済不況の続く中、私たちの活動のニーズは増大する一方です。奉仕活動の需要が増えれば当然会員を増強しなければなりませんし、活動の在り方そのものも見直す必要があります。

私たちは地区内半世紀の奉仕の奇跡を振り返り、真の平和とは、真の幸福とは何かを自らに問うべく、ガバナー・スローガンを「すべてはアクティビティの創造と改革から」と致しました。

心豊かな地域づくりを第一の目標に定め、地区内メンバー諸氏と共に、より魅力のあるライオンズの姿を追求して参りたいと存じます。

District 331-C　青木　誼

あおき　よしみ：北海道・函館ライオンズクラブ。83年入会。03年度クラブ会長。06年度RC。㈱函館撮影取締役会長。74歳。

会員の減少傾向が続く今、何とかこれを阻止しなければなりません。今期私に与えられた試練を克服すべく努力を惜しまない覚悟です。ガバナー・スローガンを「悦びの　心で繋ぐ奉仕の軌跡」としました。会員減少でクラブ事業費の捻出が窮状にある今こそ、心から喜びを分かち合い、奉仕の足跡を次世代につなげていく義務があります。世界一の奉仕団体であるライオンズクラブの面目躍如たる活動を、将来につなげていかなくてはなりません。救いの手を待っている人たちがいます。この使命感に邁進したいと思います。

District 332-A　岡井　眞

おかい　まこと：青森県・弘前ライオンズクラブ。81年入会。99年度クラブ会長。03年度ZC。05年度RC。岡井公認会計士事務所所長。60歳。

一人ひとりの力は小さくても、ライオンズ全員での奉仕活動によって少しでも地域社会の生活、文化及び福祉の充実に貢献出来ればという思いから、今期のガバナー・テーマを「みんなの奉仕で社会へ貢献」としました。また、地域社会のニーズを共に学び、それを実現出来るよう自らを高め、クラブの奉仕活動に積極的に参加し、市民の中で感動の輪が広がることを願って、アクティビティ・スローガンは「学び、奉仕し、感動しよう」です。私たちが社会から託されている使命を果たしていきたいと考えています。

District 332-B　種市　一二

たねいち　かつじ：岩手県・釜石ライオンズクラブ。88年入会。00年度クラブ会長。05年度ZC。貸し室オーナー。73歳。

事業の安定、家庭円満、自身の健康が保たれてこそライオニズムの高揚がある。古今未曾有の逆風に立ち向かって、ガバナー・テーマを「声かけてスクラムがっちり　フォワード」と地道に表示した。会員の減少は会話も湿る。今日ほどコミュニケーションの大切さを痛感したことはない。前年、家族会員制度をテコに果たした当地区の会員増強は、まさに奇跡であり、ウィ・サーブの新しい歴史が開かれた。スローガンを「協同の　汗して示す　奉仕の灯（あかり）」とし、ライオニズムの真骨頂を誇示して参りたい。

District 332-C　千葉　宏一

ちば　こういち：宮城県・気仙沼ライオンズクラブ。84年入会。02年度クラブ会長。04年度RC。㈱千葉一商事代表取締会長。65歳。

今期、私の基本姿勢は「明るく。楽しく」。厳しい経済状況の中、クラブ運営は明るく、楽しくなければならない。またガバナー・スローガンは「堅い絆と奉仕で結ぶ、地域の輪」。地域社会のために奉仕事業に取り組み、対象団体や地域の人たちと互いに理解をもって行動し、連帯を持たなければならない。アクティビティ・スローガンは「勇気。決断」、サブ・スローガンは「愛。友情」。時代の変化を受け止めその時々に合った奉仕をする。会員増強はクラブ成功のカギである。皆様の絶大なるご協力、ご支援をお願いしたい。

District 332-D　若木　幹

わかき　みき：福島西ライオンズクラブ。79年入会。88年度クラブ会長。02年度ZC。㈱サンイフ代表取締役。70歳。

ガバナー・テーマを「今こそ改革、未来のために」と定めました。厳しい時代を迎え、従来型のクラブ運営からの変革が求められています。クラブ活性化のため、若者が入会しやすい年会費、お金を掛けない例会、アクティビティを基本とし、会員増強、会員維持を図ります。更にリジョン、ゾーン内でクラブが協力し、当地区なりの「改良型新世紀クラブ」を都市部を中心に結成出来るよう、今期、足掛かりを作り、将来は青年会議所に肩を並べるような組織にしたいと考えております。皆様のご支援、ご協力をお願い致します。

District 332-E　小澤　顕一

おざわ　けんいち：山形中央ライオンズクラブ。70年CM。90年度クラブ会長。91年度ZC。99年度地区幹事。05年度RC。㈱小澤商店代表取締役。76歳。

会員増強で進化を目指して、ガバナー・テーマを「行動と実績」と致しました。１００年に一度と言われる世界的な経済の危機、不況の時代を迎えて、会員増強こそが最大の課題であり、ライオンズの原点であると思います。今年は会員増強、会員維持に全力を傾注して参る所存であります。

私たちライオンズクラブ国際協会は、地域のニーズに合った、地域と連携した奉仕団体のリーダーです。その自覚と自信を持ち、心温まる奉仕活力を与え「行動と実績」に対応する体制、組織づくりを目指して積極的に取り組んでいきます。

District 332-F 渡辺　佐文

わたなべ　さふみ：秋田矢留ライオンズクラブ。74年入会。89年度クラブ会長。06年度ZC。㈱渡辺佐文建築設計事務所代表取締役会長。78歳。

今期のガバナー・テーマは「組織の強さは会員増強から」としました。

歴代ガバナーが大変苦労されてきた会員増強に最大の努力を致します。厳しい状況下ですが、「地域と共に歩むアクティビティ」のスローガンの下、地域に明るい兆しを作り広め、親しまれるよう努めたいと思います。福祉、青少年健全育成、薬物乱用防止等諸問題に積極的に取り組みます。

国際会長テーマ「MOVE　TO　GROW」でも、個人的成長と会員増強に重点が置かれています。皆様のご理解とご協力を得たいと思います。

District 333-C 高田　浩

たかだ　ひろし：千葉県・柏グリーン ライオンズクラブ。80年CM。83年度クラブ会長。91年度ZC。03年度RC。美好屋高田㈱会長。66歳。

ライオンズは世界規模で失明防止プログラムを促進、ライオンズクエスト・プログラムは50カ国で行われ、これまでに35万人以上の教育関係者が青少年の心の悩み、善悪、自立する心、生きる喜びを教えています。ライオンズのこうした魅力ある活動を地域社会にアピールし、メンバーが自覚と誇りを持ち、女性と若者をクラブに招きましょう、新しい息吹が新しい活力を与えてくれます。

スローガンは「前進 さらなる飛躍へ　弾む心でウィサーブ」と致しました。日本のため、地区のため、雄叫びを上げて参ります。

District 333-A 樋口　剛正

ひぐち　よしまさ：新潟北ライオンズクラブ。75年入会。89年度クラブ会長。94年度ZC。98年度RC。双蜂通信工業㈱代表取締役。73歳。

ガバナー・テーマは、「集いて語り誠の奉仕」としました。当地区は、北から南まで３００キロという縦長の新潟県です。各クラブ間の交流を活発にし、相互理解を深め、クラブ活動の活性化を図りたい。青少年の健全育成を更に充実させるため、ライオンズクエスト委員会を新設、プログラム普及のためのセミナー開催などを進め、まず会員に理解を得ることから始め、333・D地区と連携して実行に移します。今日最大の事業は会員の維持であり、会員の増強であると思います。MERLをフル活用しこれに努めて参ります。

District 333-D 岡田　繁雄

おかだ　しげお：群馬県・高崎中央ライオンズクラブ。67年CM。87年度クラブ会長。97年度RC。99年度地区会計。72歳。

私は「皆で参加のアクティビティ・皆が集う楽しい例会」をガバナーズ・スローガンにしました。ライオンズにとっていちばん大切なのは、そこにクラブがあること、メンバーがいること。そして楽しく例会をし、皆で奉仕活動に励んでいることです。

私の目標は「クラブの強化」「クラブの活性化」で、これをキャビネットとして応援していきます。それには会員増強が必要です。また、楽しい例会、すばらしいアクティビティも不可欠でしょう。

この度のご縁を大切にしながらがんばります。

District 333-B 小野　忠博

おの　ただひろ：栃木県・宇都宮東ライオンズクラブ。88年入会。95、97年度クラブ会長。99、04年度ZC。05年度RC。㈲芳賀交通代表取締役。67歳。

「この世で生き残れるのは、最も強いものや賢いものではない。『変化』出来るものである」。１５０年前にチャールズ・ダーウィンは進化論の中でこう唱えました。この厳しい激動の世を乗り切るため、まさに今、我々に必要とされているのが環境に適応した「変化」なのです。それには、いかに最善策への発想転換をし、一人ひとりがいかに「本気」で取り組むか。連帯により最適なものに変身し、そして良いものは残し進化する。

「TRANSFORMER　変身　トンランスフォーマー」を合言葉に、本気でがんばりましょう。

District 333-E 小吹　勇

おぶき　いさむ：茨城県・石岡ライオンズクラブ。79年入会。02年度クラブ会長。05年度ZC。常南労務協会会長。70歳。

ライオンズクラブに対するニーズは年々変化しています。これに対応するため、ガバナー・スローガンを「知得創新――歴史を熟知し未来を創造しよう――」と致しました。これと連動して、アクティビティ・スローガンを「躍進・発展、そしてグローバルにWe Serve」とし、過去の歴史から得られる知識と経験を結集し、更なる発展を遂げることを目的としています。また、最大の課題である会員増強にはGMT委員会を新設して取り組みます。ライオンズ精神をより発展させ、未来に継承出来るよう努力して参ります。

District 334-A　青木　重臣

あおき　しげおみ：愛知県・名古屋名城ライオンズクラブ 85年入会。03年度クラブ会長。05年度ZC。07年度RC。青木重臣法律事務所所長。65歳。

ガバナー・キーワードは「魅力と活力の再生」、副題を「誇り高く、夢を求めて」としました。ライオンズクラブは、時代の変化に的確に対応してきたとは言えません。高齢化が進み、運営・事業のマンネリ化に喘ぎ、自信と誇りが揺らぎ、魅力の減退さえ生じています。

私たちはもう一度原点に立ち返り、自信と誇りを呼び起こし、クラブの魅力と活力を再生し、大きな夢に向かって前進すべきです。そのためのアクティビティ・スローガンは、「――感動の奉仕を――友愛と絆、知性のもとで」としました。

District 334-B　石井　博之

いしい　ひろゆき：三重県・津中央ライオンズクラブ 89年入会。04年度クラブ会長。07年度RC。関西プロパン瓦斯㈱代表取締役。68歳。

ガバナー・スローガンは「一致団結」としました。100年に一度と言われる未曾有の経済不況の中にあって、山積された諸課題に向かいキャビネットが一致団結をモットーに全力を尽くしがんばります。会員の減少は極めて憂慮すべき状態です。国際会長テーマ「MOVE TO GROW」の下、まず会員の増強・維持が緊急の課題と考えます。組織を挙げてこれに取り組み乗り越えてこそ、活力ある奉仕活動が生まれてくると信じます。地球規模で必要とされている環境問題等への取り組みを含め、活気ある1年にしたいと考えます。

District 334-C　斉藤　守

さいとう　まもる：静岡県・浜松葵ライオンズクラブ 81年入会。95年度クラブ会長。01年度ZC。05年度RC。斉藤整形外科医院院長。69歳。

10年以上にわたる会員の減少傾向はライオンズの組織を根底から揺るがしています。更に市場原理の破綻が世界を経済恐慌の嵐に陥れたことも拍車を掛けました。会員を減らしたクラブが今まで以上にスムーズな運営と活発な奉仕活動を継続していくには、メンバー全員が仲間意識を強め、結束し、一丸となって事に当たることこそ肝要です。「信頼の箍（たが）」でくくられたクラブは人数の多寡にかかわらず磐石です。アクティビティ・スローガンは「いま結束のとき　友愛の絆で　未来につなごう　ライオニズム」としました。

District 334-D　米山　六博

よねやま　むつひろ：富山県・入善ライオンズクラブ 81年入会。90年度クラブ会長。94年度ZC。03年度RC。入善工業㈱代表取締役社長。72歳。

アメリカ金融危機に端を発した世界同時不況の進行に、大変心を痛めております。しかし日本は、戦争で家や家族を失った廃虚の中から、60余年間にわたり英知と努力を結集し、互助の精神を堅持し自由と平和を守り続けて参りました。私はまさにこれが「ライオニズム」と理解しております。

アクティビティ・スローガンは「友愛と英知で守ろう、地球と人」、ガバナー・キーワードは「愛と感動」としました。そして「愛と心で汗の奉仕」を基本方針の最重点項目として、情熱を燃やし日々研鑽に努めて参ります。

District 334-E　滝沢　瑞穂

たきざわ　みずほ：長野県・飯田赤石ライオンズクラブ 77年CM。93年度クラブ会長。96年度ZC。滝沢内科医院院長。73歳。

世界は激しい経済不況に陥り、自然環境異変が各国で起きている。ライオンズが今すべきことを正確に掌握する。ガバナー・スローガンは「誇りと結束、輝く奉仕――たゆまぬ前進――」。我々は今こそ強い意志を持ち、L字の誇りを胸に一致団結し、クラブの結束を強め情熱を持って輝かしい奉仕を行おう。基本方針は①MERLの推進②活力と魅力ある例会③青少年健全育成④献血・献眼運動の推進⑤日本・フィリピン合同医療奉仕活動の継続実施⑥環境保全活動の実施。ライオニズム高揚に向けて誠心誠意尽くす決意である。

District 335-A　石本　章宏

いしもと　あきひろ：兵庫県・芦屋東ライオンズクラブ 85年入会。95年度クラブ会長。03年度ZC。㈲芦屋石油代表取締役。64歳。

昨今の金融不安による全世界同時株価下落、企業の急激な業績悪化等、未曾有の状況に陥り、これから先、誰も予想出来ない社会情勢です。特に当地区は、阪神淡路大震災の災害被害もさめやらず、大変な時代を迎えようとしております。

この度私は、ガバナー・テーマを「変革」と致しました。クラブのスリム化・若返り・簡素化を実行するため、「変革なくして継続はあり得ない」という認識の下、優秀な若者の入会と育成に全力を注ぎ、会員維持、資質の向上に努めて参りたいと考えます。

District 335-B　児玉　隆

こだま　たかし：大阪ライオンズクラブ。83年入会。94年度クラブ会長。03年度ZC。04年度RC。児玉医院院長。68歳。

会員の減少が続きます。長引く経済不況が影響していると考えます。見方を変えると、戦後の日本を復興し、今日の隆盛に導いた年代の方々が、日本ライオンズの礎を築き、現在の繁栄を担ってきました。次代の私共は先達に比べて努力が不足しているのかもしれません。会員減少の昨今、なお、がんばっている現有のメンバーこそライオンズ活動の騎士であります。困難な時代、現在の規模で今出来ることが本来のライオンズの姿ではないかと考えます。明日に向かって夢を持って、明るく楽しく前進して参りたいと思います。

District 335-C　佐藤　義彦

さとう　よしひこ：京都ライオンズクラブ。88年入会。98年度クラブ会長。06年度RC。佐藤法律事務所。70歳。

ライオンズクラブの「ＬＩＯＮ」という言葉には、高潔で雄々しい人、社会において必要とされる人、という意味が込められています。

「ＣＬＵＢ」とは、共通の目的のために定期的に集まる人たちのことだそうです。漢字では「倶楽部」と書くので、「ライオンズクラブ」は、そのクラブ独自の社会奉仕のために定期的に集まって共に楽しむ高潔な仲間たち、ということになります。

それぞれのクラブが「私たちにしか出来ない奉仕」に誇り高く邁進されることを願っています。

District 335-D　新宅　元之

しんたく　もとゆき：兵庫県・姫路中央ライオンズクラブ。82年入会。99年度クラブ会長。02年度地区幹事。04年度ZC。㈱ヒメアル代表取締役。67歳。

ガバナー・テーマは「情熱を込めて開こう！未来の扉」、アクティビティ・スローガンを「Let's try! 挑戦は明日を創る！」としました。

近年の社会環境の激変と経済不況、私たちの周囲はあまり良い環境とは言えません。故に今こそライオンズクラブの理念が大いに発揮されます。そのためには会員増強、会員維持が最大の課題です。それによってライオンズの活性化と躍動感を回帰しなければなりません。一方通行の奉仕ではなく、会員自身、そして他者の幸せを基盤に、双方が喜び、楽しみ、心動かされる活動を目指します。

District 336-A　武久　一郎

たけひさ　いちろう：徳島城山ライオンズクラブ。77年CM。80年度クラブ会長。94年度ZC。01年度RC。医療法人一洋会たけひさ医院院長。75歳。

ガバナー・スローガンは「ライオンの未来に、情熱と夢を持ってウィ・サーブ」と致しました。

世界的な不況と言われる中で、地区の運営を担っていくこととなりましたが、悲観的にならず、ライオンズクラブの未来に、常に夢を持ち続け、地区内１５５クラブの皆様と共に一生懸命活動して参りたいと思っております。

会員の減少は、国際協会のみならず、クラブにとっても大きな問題です。会員維持、会員増強に工夫を凝らしながら、挑戦していく所存でございます。

District 336-B　中本　博泰

なかもと　ひろやす：鳥取県・倉吉グレート ライオンズクラブ。84年CM。96年度クラブ会長。07年度ZC。㈲倉仏代表取締役。64歳。

１８３０年代の産業革命後の約２００年間、限りある地球の資源を湯水のごとく使い、機械的な生産を続けてきました。多くの破壊を伴った今までの産業を、新しい視点で見直さなければなりません。私たちは類稀なる奉仕を提供する普通の人の集まりです。一人では出来ない奉仕をクラブで、クラブで出来ない時は地区で、日本で、更に世界で大きく奉仕しています。そのライオンズをもっと活力のある楽しいものにしたい。願いを実現するために、会員が責任を持ち新たな成長へのプロセスを始動しようではありませんか。

District 336-C　玉浦　巖

たまうら　いわお：広島県・三原浮城ライオンズクラブ。74年入会。98年度クラブ会長。00年度ZC。06年度RC。玉浦薬品㈱代表取締役。64歳。

当地区では結成25年以上が80クラブ、77%になります。積み重ねてきた良き伝統もありますが、環境の変化に対応しきれていない部分もあると思われます。奉仕活動も物質的アクティビティから人格形成、人道的援助等の奉仕活動にと変化し、長い年月には我々が気付かないところで、制度疲労を来している部分も見えてきています。従ってクラブ運営、奉仕活動全般にわたって改革が必要な時期だと考えております。今一度クラブを見つめ直し、大胆な改革をし、新たなる成長を期待するところであります。

District 336-D　組嶽　晶一

くみたけ　しょういち：島根県・東出雲ライオンズクラブ。72年入会。92年度クラブ会長。03年度ＲＣ。㈲組嶽本店取締役会長。74歳。

ガバナーの務めは国際協会のメッセージを正しく伝えることから始まる。地区スローガンを「光と愛を」、ガバナー・スローガンを「夢をいだき初心に返ってWe Serve」とした。今こそ初心に帰り物事をとらえることが大切だ。創設者メルビン・ジョーンズは、「人のために尽くせば、それは何かの形で返ってくる、報酬をあてにしない陰徳を積めば、人は必ず精神的、肉体的、健康を得る」と言っている。地域社会のオピニオン・リーダーとして、自らを厳しく律し自信と誇りを持って奉仕活動の出来る環境づくりを目指したい。

District 337-A　山本　正廣

やまもと　まさひろ：福岡県・大川ライオンズクラブ。78年入会。94年度クラブ会長。02年度ＺＣ。06年度ＲＣ。㈱石の山本代表取締役。67歳。

ガバナー提言は、「創意・工夫・協調」としました。今、ライオンズクラブに求められているものは、会員自らが常に新しいもの、オリジナルのものを作り出そうとする「創意」と、受け継がれ蓄積されてきたものを生かすために、視点を変えて良い方法を考える「工夫」であると思います。

創意も工夫も実践するためには、異なる意見があっても、最終的にはライオンズの名の下に互いに協力し合う「協調」が不可欠であることは申すまでもありません。ライオニズムの更なる高揚を追求し、次世代へ確実に伝承していきます。

District 337-B　佐藤　宜之

さとう　よしゆき：大分ライオンズクラブ。91年入会。03年度地区会計。06年度クラブ会長。㈱サンクス取締役会長。62歳。

地区スローガンとして「みんなで創ろう　夢ある社会」を掲げました。行政や経済活動だけでは補えない部分に光を当て、奉仕の心で補い、ライオニズムと会員のチームワークによって夢と希望の持てる社会を目指したいと思います。ガバナー・モットーを「明るく　元気に　前向きに」としました。世界は今、大変な経済危機にあります。精神面が試される時代だとも言われています。ライオンズの会員の心は、明るく、元気に、前向きであってほしいという願いを込めました。1年間、誠心誠意、最善の努力をして参ります。

District 337-C　八並　信

やつなみ　まこと：長崎県・波佐見ライオンズクラブ。81年入会。96年度クラブ会長。04年度ＺＣ。07年度ＲＣ。八並整形外科医院理事長兼院長。70歳。

ガバナー提言「未来『あした』のために、更なる一歩を」をテーマに掲げ、社会環境が大きく変化する今日、地域社会のニーズに応える奉仕がますます必要と痛感します。そのためには、会員増強につながるよう、クラブの活性化を図るべく、強く決意しています。主な目標は、青少年健全育成では薬物乱用防止活動の普及とライオンズクエストの推進、環境問題では地球温暖化防止に会員一人ひとりが身近に出来ることから活動の幅を広げ、献眼活動では全会員のアイバンク登録の推進と角膜移植活動の普及に取り組んでいきます。

District 337-D　宮　貞夫

みや　さだお：鹿児島県さつまライオンズクラブ。82年入会。97年度クラブ会長。07年度ＲＣ。丸宮織物㈱取締役相談役。68歳。

地区分割により新体制（鹿児島県・沖縄県）となりました。昨今のライオンズを取り巻く環境が一段と厳しくなる中でこそ、原点に立ち返り、恒常心をもって旗幟鮮明に地区運営に努力致す所存です。創設者メルビン・ジョーンズは、「ライオニズムの究極の目的は人々に『友愛』の尊さを教えることである」と、自説を結んでおられます。これに共感し、自身のテーマを「友愛・奉仕・感動」としました。地区スローガンは「明るく　楽しく　ウィ・サーブ」。特に環境問題、地球温暖化防止に照準を合わせ強力に推進致します。

District 337-E　野村　民夫

のむら　たみお：熊本第一ライオンズクラブ。81年入会。96年度クラブ会長。05年度ＲＣ。肥後ダンロップタイヤ販売会社代表取締役。71歳。

337・D地区の分割により、今年度から熊本県が337・E地区となりました。2月末現在、クラブ数61、会員数1727人で、減少の一途をたどっております。アメリカの金融危機に端を発して世界的な不況に陥り、会員増もまま成りませんが、新地区として独立した以上は会員増強を最重点目標として、3年以内に少なくとも2千人を達成したくがんばって参ります。

地区スローガン「創意工夫による共創の構築」、ガバナー・テーマ「会員相互の融和でWe Serve」。皆様のご支援ご協力を心からお願い致します。

■国際理事
栢森新治
（愛知県・名古屋ウエスト）

奉仕の輪を後世へつなごう

私事ですが、今年次男が40歳になり日本青年会議所（JC）を卒業したのを機に、ライオンズクラブへの入会を勧めました。幸い私の所属クラブの承認が得られ、今年の4月に無事入会式を終えました。次男も仕事だけでなく、家庭を持ち、2人の子どもの親として多忙な日々を送っています。私と同じ会社でありながら勤務地が異なるため、日頃は会う機会も少なく、会ってもあまり話をすることはありませんでした。

さて、ライオンズクラブでは長年にわたり、国際会長のリードで会員増強に力を入れてきました。その結果、世界的には会員減少に歯止めが掛かり、増加に転じましたが、アメリカと日本ではいまだ掛からず重要課題となっています。日本は世界的に見て女性会員の比率が低く、女性を招請する方が会員増強の可能性が高いのではないかと、獲得に特に力を入れるクラブも出てきました。

山田實紘元国際理事も「夫婦でライオンズクラブに入会し、共に奉仕活動をしよう」と、強く提唱してきました。その成果も出てきて、例えば330‐A地区や332‐B地区では、メンバーの奥様が400人近くも入会したというすばらしい話も聞きました。

国際理事会に出席して感じることは、理事に限らずご夫婦でライオンズ・メンバーになっている方がたくさんいることです。まず女性理事の夫は必ずやメンバーであり、国際理事会に配偶者として参加しています。

3月のニューヨーク理事会で注目したのは、理事の家族の入会式が執り行われていたことでした。理事の子どもか孫でしょうか、若い方たちが入会されていました。夫婦でライオンズクラブの奉仕活動に参加するのももちろん良いのですが、もっと輪を広げて家族で参加するのもすばらしいことだと感じました。

日本に戻り、早速私も3人の息子たちにライオンズクラブへの入会について話をしました。現在、長男は私が創業した会社の社長を務めており、次男が副社長、三男が専務をしています。長男と次男は、それぞれがJCの経験があり、また私がライオンズクラブのメンバーであることから、ライオンズクラブやロータリークラブの存在はよく知っていました。

家族で話し合った結果、「奉仕の輪を途絶えさせずに、後世につなぐ」という観点から、まずは次男がライオンズクラブに入会することになったのです。

日本ライオンズは誕生以来50余年の年月を経て、すばらしい実績と歴史を築いてきました。しかしその反面、メンバーは高齢化し、他界される方も数多く、対処を迫られる状態になりました。つまり、世代交代の時期が来ているということです。今、政界では世襲性が問題視されていますが、奉仕団体の世界では、後世につなぐという意味からも世襲が大切であり、もっと力を入れるべき方針だと思います。

本日クラブ例会があり、次男も来ておりました。良き仲間と会えるのに加え、次男にも会えるという楽しみが増え、例会後、2人でコーヒーを飲みました。共通の話題が出来て、久しぶりに話がはずみました。考えてもみなかった親子の絆が深まったような気がします。

NEWS CASSETTE

公式版『ライオン』誌編集者会議開催

5月9日、10日の両日、アメリカ・イリノイ州オークブルックのハイアットロッジ・マクドナルドキャンパスで、公式版『ライオン』誌の編集者会議が開催された。この会議は4～5年ごとに開かれており、今回は18版21人（オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ブラジル、イギリス・アイルランド、台湾、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ・キプロス、インド、日本、ニュージーランド、ノルウェー、スウェーデン、スイス、タイ）の編集者が出席。ブランデル国際会長、ヴィルフス国際第1副会長、国際理事会PR委員会メンバー、及び『ライオン』誌総編集長を務める国際本部長を始めとする本部職員を加え意見を交換した。初日は「国際理事会方針書」、「国際ニュース交換」、「国際協会ブランド・イニシアチブ」、「オンライン・マガジン」の各テーマで、本部職員によるプレゼンテーションと編集者とのディスカッションがあり、特に国際協会のブランド・リニューアルと国際理事会方針書についてさまざまな意見が飛び交った。2日目は「ライオン誌を通して会員増強をサポートするには」をテーマとしたグループ・ディスカッション、各版の成功例や課題の発表などが行われ、最後にリーセ国際理事会PR委員長が、「全般的にライオン誌の課題はビジュアルの強化と、より多くのアクティビティ事例を集めることの2点に集約されるようだ。予算的に厳しい部分もあるだろうが、ぜひすばらしいライオン誌を編集してほしい」と語り、2日間に及ぶ会議を締めくくった。

ライオンズと国際赤十字のパートナーシップ

3月27日、スイス・ジュネーブにおいて、アルバート・ブランデル国際会長と国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）のベケレ・ジェレタ事務局長が提携の覚書を交わした。災害への備えにボランティアが果たす重要な役割と緊急援助を強化するのが目的で、今後地域レベルでのプロジェクト開発が進められる予定。ブランデル国際会長は、両国際組織の提携について「それぞれの緊急事態への対応能力を強化し、双方に利益をもたらすだろう」と述べている。

国際赤十字はスイス人実業家アンリ・デュナンが国際的な救護団体の必要性を提唱し、1863年にスイス・ジュネーブで創立された。「人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性」の基本七原則の下に活動する人道機関で、「赤十字国際委員会」「国際赤十字・赤新月社連盟」「各国の赤十字社・赤新月社」の三つの機関で構成されている。今年はデュナンが赤十字の精神を提唱する契機となった1859年のイタリア統一戦争、ソルフェリーノの闘いから150年目を迎え、国際的なキャンペーンが展開されている。日本では5月14日、日本赤十字名誉総裁の皇后陛下ご出席の下、赤十字思想誕生150年を記念する「全国赤十字大会」が開かれた。

336・B地区のCO_2削減チャレンジ

今年度、地区を挙げて温室効果ガス（CO_2）削減運動を展開した336・B地区（鳥取・岡山／森岡秀行ガバナー）がその結果を発表した。地区環境保全委員会（粟島道和委員長）を中心に、「冷房は1度高く、暖房は1度低く」「1日5分、車のアイドリングストップ」など日常生活の中で出来る温暖化防止策6項目の削減に取り組み、会員各自が提出した集計表をクラブが取りまとめた（本誌4月号THEME参照）。昨年8月から今年2月まで7カ月間の実施期間を終え地区集計をした結果、地区内会員の42％に当たる1250人が参加し、合計5万2398キログラムのCO_2削減を果たした。

森岡ガバナーはこの運動について、「一人の努力では目に見えないが、多くの人が集まればこのようなすばらしい結果が出ます。努力された皆さんに感謝します」と話している。

5月承認の視力ファースト、ライオンズクエストへの交付金

5月に開催された視力ファースト諮問委員会で10件、総額119万1669ドルの視力ファースト交付金が承認された。コンゴ、ナイジェリア、ペルー、パキスタンなど8カ国で白内障検査及び手術キャンペーン、眼科トレーニングなどが実施される。うち4件はCSFⅡの用途指定献金による事業で、スウェーデン・ライオンズはタンザニアで総合的眼科ケア・プログラムを実施、メキシコとモーリシャスではそれぞれ個人の指定献金で眼科病院の改良やプロジェクト推進に取り組み、メキシコではグローバル・ヘルス・アンド・エデュケーション財団の指定献金で眼科クリニックの改良が行われる。

同じく5月開催のライオンズクエスト諮問委員会で承認された四大交付金は3件9万3千ドル。日本とメキシコのプログラム実施や拡張に対するもので、日本は334・B地区（三重・岐阜）に2万5千ドル、336・B地区（鳥取・岡山）に1万8千ドルが交付された。

国際協会公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）のLCIFページに交付金リストが掲載されている。

LCIF年次報告は公式ウェブサイトで

昨年度のLCIFの活動報告を収めた『2007・08年度LCIF年次報告』のデジタル版（20ページ）が、国際協会公式ウェブサイトでダウンロー

LIONS ON LOCATION 世界で奉仕するライオンズ（『ライオン』誌本部版より）

ニュージーランド

少女の目に視力を

モニーク・ペンゲリー（10歳）は困難を抱えて思春期に入ろうとしていた。かわいらしいニュージーランドの少女は右目の視力を失い、左目も徐々に見えなくなりつつあった。彼女が患う円錐角膜は角膜が徐々に変形して視力が低下する病気だ。視力を取り戻すための角膜移植は、成長して21歳を迎えるまで手術を受けることが出来ない。

思春期は目が見えないまま過ごすにはあまりに貴重な時期だと、ライオンズは考えた。しかし彼女の視力を回復するのは簡単なことではない。治療法として、リボフラビンを点眼しながら紫外線を照射するコラーゲン・クロス・リンキングと呼ばれる技術がある。この治療を受けるためにはオーストラリアへ行かなければならない。そこで、ハミルトン・チャートウェル ライオンズクラブとナルアワシ ライオンズクラブは、オーストラリア・シドニーのライオンズの協力を得て資金を集め、手術の日程を決めて、モニークと母親のために宿泊場所も手配した。資金集めのガレージ・セール当日は悪天候に見舞われたが、ソーセージはおいしそうな音を立てて焼き上がり、品物の売れ行きも好調で、必要な資金を獲得することが出来た。

治療は成功を収め、モニークは学校に戻った。

「モニークの母は、苦況にあること以外は彼女のことを何も知らないはずのシドニーのライオンズが示してくれた友情と親切に心底驚いていました」と、『ライオン』誌ニュージーランド版は報じている。

スイス

高齢者を励まし、楽しい一時を

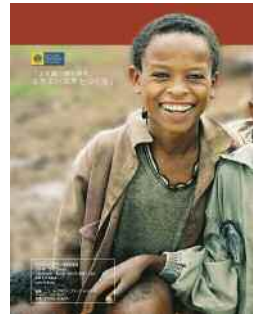
度重なる失敗と批判を乗り越えて、発明家フェルディナンド・ツェッペリンは1900年、世界初の飛行船を飛ばすことに成功。飛行船は障害物にさえぎられて降下することなく、ドイツとスイスの国境付近の空高く上昇した。

スイスのライオンズは、身体に障害が生じ、行動の自由がままならなくなったお年寄りに楽しんでもらう催しに、ツェッペリンの生涯に基づいた演劇を選んだ。

クルーズリンゲン ライオンズクラブはその夜、湖畔の劇場で上演される「スピリット・オブ・ツェッペリン」に数十人の高齢者を招待した。

「ツェッペリンは、人生における障害を乗り越えるには勇気とねばり強さ、忍耐がいかに大切かを実証しています。忍耐力と逆境から立ち直る力を持った強い人間が、偉業を成し遂げうるのです。これは大きなライフスタイルの変化を余儀なくされた人々にとっても言えることです」とレオパルド・ヒューバー会長。

上演中、観客は大いに笑い、喜びの表情を浮かべていたという。終演後、ある高齢の婦人から届けられたお礼の手紙に「新鮮な空気が吸えてうれしかった」とあった。ヒューバー会長は思う。「障害を抱えた高齢者の方々は施設でケアを受けています。でも我々ライオンズにとって、それだけで十分でしょうか」

ド出来る。ジミー・ロスLCIF理事長によるメッセージ（本誌4月号掲載）の他、視力ファーストや災害支援を始めとする交付金事業のリポート、献金の実績、財団の財務報告書などが豊富な写真と共に掲載されている。ダウンロードは公式ウェブサイトの「LCIF」のページで。

音楽の都ウィーンで毎週開かれるライオンズ昼食会

オーストリアの首都ウィーンで開かれているウィーン・ライオンズ昼食会は、1988年から20年間で千回を超え、これまでに34カ国の232クラブから8200人以上のビジターを迎えた。仕事や観光でウィーンを訪れる旅参加するリピーターが多いが、初参加のビジターにはライオンズ昼食会記念バナーが贈られる。この昼食会は毎週木曜日の12時～14時まで、市中心部のカフェ・ランドマン（Cafe Landtmenn, Dr. Karl-Luegerring 4, A-1010 Vienna）で開催。市庁舎近くにあるこのカフェは創業1873年、エレガントな雰囲気漂う老舗カフェだ。

ウィーンのライオンズは各国ライオンに昼食会への参加を呼び掛けている。

「ライオンズ昼食会はクラブ間、国家間の友情を築き、友好を深める場です。ウィーンを訪れるすべてのライオンを心より歓迎致します」

会議録

第9回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（4月21日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：大熊泰雄、齊藤實、阿部幸一、矢口武克、八嶌隆、百田勝彦各議長、清水英徳、山地章靖両副議長、後藤隆一、栢森新治、杉本忠夫各国際理事）

①前回議事要録の確認と議事録署名人による署名②本日の議案確認（緊急議案の有無）③春季国際理事会報告④複合地区会則改正案について⑤331複合地区からの提案（再提出）⑥332複合地区からの提案（再提出）⑦330複合地区からの提案⑧（議長連絡会議）第5回諮問委員会会議報告⑨各複合地区提案事項の審議⑩委員会報告⑪その他

第10回ライオン誌日本語版委員会（5月14日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：後藤隆一、栢森新治、杉本忠夫各国際理事、渡邊豊隆、瀧澤嘉門、坂井正、小岱義正、大島康男、山根健、塩倉安伸各委員、荘英隆ITアドバイザー）

①2009年各国語版編集者会議②5月号（11万3000部発行）出来③6月号記事内容の確認④7月号以降台割（案）と主要記事予定⑤オンライン報告システムServamA⑥ライオン誌日本語版事務所運営状況⑦その他

新結成クラブ／名称変更／解散

■**新結成クラブ**

群馬県・松井田（上原博男会長）▼2月15日結成▼スポンサー／高崎

東京ワンハンドレット（田中傳次郎会長）▼4月17日結成▼スポンサー／東京葵

■**クラブ名称変更**

東京代田橋→東京山手

東京都・立川→東京立川

山口県・熊毛→周南

広島県・吉田→安芸高田

■**解散クラブ**

岐阜県・古川

訃報

■**元国際役員**

ライオン井澤一義（愛知県・豊橋）

5月7日死去、77歳。97年度334複合地区ガバナー協議会議長、334・A地区ガバナー。

ライオン大塚孝元（山形県・南陽）

5月11日死去、84歳。00年度332・E地区ガバナー。

■**献眼者**

4月＝ライオン黒田直也（山形県・河北）／ライオン本山正夫（長崎県・川棚）／5月＝ライオン井澤一義（愛知県・豊橋）

330〜333複合地区（東日本）担当
GMTリーダー
後藤　忍

2008年度から3年間にわたり継続的に会員増強に取り組む「グローバル会員増強チーム（GMT）」。複合地区、地区とのチームワークで、会員増強の目標達成をサポートするGMTリーダー2人に、それぞれ隔月で、チームの動向や担当エリアの会員増強の成功事例などを伝えてもらう。

アル・ブランデル国際会長が会員増強を推進するためにGMTチームを発足させて1年が経ちました。当初は耳慣れない言葉の意味と活動計画の説明に時間が掛かりましたが、準地区ガバナーとMERL（マール）チームの努力で各クラブにも徐々に理解して頂くことが出来ました。その結果、今年の大不況の中でも5月現在の会員数は全体でプラスを維持出来ていることに、各リーダーの皆様には心より感謝しております。

エバハルト・ヴィルフス国際第1副会長は次年度も会員増強を最重要の方針として打ち出しておられます。次期GMTの体制を強化する会議が、国際本部のあるイリノイ州オークブルックに全世界からGMT関係者を招集して行われました。詳細については高田GMTリーダーが6月号の当欄で報告された通りです。

今回の会議で次期GMTチームの体制が大幅に変更になりましたが、驚いたのは国際第1副会長自らがGMT委員長を兼務され、副委員長には国際第2副会長が就任されることです。GMTプログラムを土台とした会員増強の推進に並々ならぬ決意を感じ取りました。

また、新体制として会則地域ごとに1人のGMT会則地域リーダーが任命されました。私たちの東洋・東南アジア（OSEAL）地域は言語や地域性の違いから特別に韓国のテーサップ・リー元国際会長と香港のウィンクン・タム元国際理事、そして日本の8複合地区を統括予定の後藤隆一国際理事の3人が就任され、来期は更に強力なチーム布陣となっております。（写真：OSEAL地域の次期GMTチーム）

世界の会員数は会議が行われた4月時点で2万1765人の純増となっています。これはインドを中心としたインド・南アジア・アフリカ・中東（ISSAME）地域の貢献が多数を占めていますし、韓国の2500人と台湾の2千人の増加も注目されます。

全世界の女性会員の占める割合は28％ですが、日本はいまだ9％に止まっています。今後、コンセンサスが得られれば飛躍的に増加出来る可能性を持っています。家族会員を始めとする新しい会員制度が発足して以来、世界各国はそれらを導入して成果を上げておりますが、日本では長年培ってきたライオンズクラブの概念との違いに戸惑っている会員も多く見られます。より質の高いクラブと会員の増強は重要な課題でこれからも続けなければなりません。中でも、女性会員や若手会員の育成は将来の日本のライオンズクラブの発展にとって不可欠だと思われます。

次年度のクラブ方針としてM・E・R・Lを取り上げて頂き、ますます発展されますことを希望しております。

＊文中の役職は6月時点の役職です

より強力な組織を目指して
～LCIFコーディネーターを設置～

LCIFファイル

9・11アメリカ同時多発テロが起きた当時、アメリカ・ニューヨーク州のジョン・ワーゴは20複合地区ガバナー協議会議長であった。ワーゴはテロ以降のLCIFの対応に感銘を受けていた。特に「救援活動を行うボランティアのための休憩場所の提供」と「遺族のためのキャンプ開催」は際立った成果を収めていた。2008-09年度国際理事会アポインティーに就任したワーゴは「LCIFの活動は、初めから本当にすばらしかった」と振り返る。

ワーゴは、LCIFがボランティア体制強化のため新たに設けた「LCIFコーディネーター（複合地区コーディネーターはMDC、地区コーディネーターはDCと呼ばれる）」の存在を知り、ニューヨーク州20複合地区にLCIFコーディネーターを設置する必要があると判断した。ワーゴ自身、世界に130人いるMDCの一人である。

「我々複合地区コーディネーターが地元ライオンを指導・支援することで、LCIFの活動を更にアピールすることが理想です。今後は更に活動範囲を広げ、我々の組織のすばらしさを多くの方に理解してもらえればと思います」

Lions Clubs International Foundation

LCIFコーディネーターは、活動内容や献金の進捗状況などの報告、地区への教材提供などを通して、ライオンズクラブのメンバーのみならず一般の人にもLCIFの認知拡大に努める。また、資金調達の促進を図るため、献金者の確保や、ライオンズの交付金申請・認可の助成を行う。

新たな組織による資金獲得努力は、青少年育成プログラムを始めとするLCIFの奉仕活動を支え、発展させていくだろう

LCIFコーディネーターの任期は4年間（地域によって期間は異なる）。また、地区・複合地区LCIF委員長の経験が必要だ（MDC名簿は国際協会公式ウェブサイトで参照可能）。

今回の組織変更は、開発諮問委員会（DACD）により、最新のLCIF開発計画として発表された。

「通常、地区ガバナーの任期は1年です。ガバナーが、LCIFの豊富な活動内容や多彩な交付金支援について理解する頃、実はもう彼らの任期も終わりに近付いています」

とワーゴは話す。現在、ライオンズクラブの会員・非会員にかかわらずLCIFの活動に従事している人は、これまでにない規模に達している。実際、ライオンズクラブ会員1万1千人を対象に行った調査では、90%の人が「LCIFはライオンズクラブにとって非常に重要である」と回答している。

「我々は40年間、人道的奉仕活動を提供し、世界でナンバーワンの非政府団体組織と認められてきました。視力ファーストⅡキャンペーンでは2億ドルの献金を獲得するという、ライオンズの視力回復活動の歴史に大きな軌跡を残しました」

とは、マヘンドラ・アマラスリヤLCIF理事長。

「LCIFの活動を支えるコーディネーターに、どうか良きアドバイスと協力をお願いします。共に力を合わせ、より良い世界を実現するために、更に強力な組織として成長していきましょう」

SightFirst Update

闇から光の中へ

クリステン・エッカート

ニコラス・ディアスは、失明するかもしれないと考え始めた日のことを覚えている。2年以上も前のことだ。元タクシー・ドライバーだった彼は当時、メキシコシティにあるレストランでウェイターとして働いていた。が、既に視力が低下していたため、仕事を辞めざるを得なかった。

ある時、ディアスは客に飲み物を注ぐために、片手に飲み物が入ったピッチャーを持ちながらレストラン内を歩いていた。彼は客のグラスがよく見えなかったため、客やテーブル一面にソーダをこぼしてしまい、情けない思いをしたのを覚えている。彼は「人生は闇に陥り始めました」と話す。

彼と妻はメキシコシティから少し離れたソチミルコに部屋を借り暮らしている。妻は姪の子どもたちの世話をしており、夫妻はシャキラという名前の犬と共に、非常に質素な生活を送っている。彼らの娘は、メキシコシティに住んでおり、両親に家賃を払うためのお金を仕送りしてくれる。

2年前、ディアスが両側性白内障と診断された時には、夫妻は保険に入っておらず、また手術費を支払う余裕もなかった。その後間もなくして、ディアスはレストランでの職を失った。彼は庭師として働く一方、路上駐車スペースの監視の仕事に就こうとした。が、彼の視力は悪化する一方で、約1年後には、外を歩くことが出来ない状態になってしまった。

そんなある日、娘から電話があった。

「お父さん、聞いて！ メキシコシティのライオンズが病院とタイアップして白内障手術キャンペーンをやってるんだって。手術費が払えない私たちのような家族の援助をしてくれるみたいよ」

翌週、ディアスは妻に付き添われて、地元の視力検査キャンペーンに参加したところ、そこでペペ・フェルナンデス元地区ガバナーに出会った。4千件に及ぶこの白内障手術キャンペーンの一部には、視力ファースト交付金が利用され、フェルナンデス元地区ガバナーはその管理を任されていた。ディアスは今回のキャンペーンを通して、総合的なアイケアの検査や所得調査を受けた後に、去年のバレンタインデーに手術に臨んだ。現在67歳である彼は、まるで20歳の頃の視力に戻ったようだと話している。

これで、彼は久しぶりに仕事を探すことが出来るようになった。

ライオンズがディアスと彼の家族の様子を見に行くと、ディアスは喜んで彼らを家に迎え入れる。家族は共に飲み交わしたり、また日用品の調達のために一緒に店に行ったり、またシャキラの散歩に出かけたりしている。ライオンズの奉仕活動や、寛大さに対しては、どんなに感謝しても言葉では言い尽くせないほどだ。彼は涙を浮かべながら、こう話す。

「私は今まで以上に、完璧と言えるほどに元気になりました。まるで生まれ変わったようです」

ニコラス・ディアスはメキシコ連邦区におけるライオンズ視力ファースト・キャンペーンによって手術を受けた千人以上のうちの一人に過ぎない。視力ファースト・プロジェクトにより、更に3千人もの人がライオンズから視力の贈り物を受ける予定になっており、引き続き成果を上げている。

LIONS CONQUERING BLINDNESS
SIGHTFIRST

最近受けた白内障手術により視力を回復したベニート・マヤ・ロドリゲスのもとを訪れ、術後の定期検診を行う地域の視力ファースト顧問、Dr.フロレンシオ・カブレラ

CLUB REPORT クラブ・リポート

●当欄はライオンズ、レオ、ライオネスの活動報告を扱います。投稿は住所、氏名、クラブ名を明記の上、800字程度で。関連写真があれば添付してください

北海道・芦別ライオンズクラブ

春。鮭の稚魚、旅立ちの時

4月12日、空知川支流のパンケ幌内川に架かる常盤橋のたもとで、鮭の稚魚は旅立った。

尾矢茂会長の「次世代に思いやりをこめてウィサーブ」のスローガンの下、宮脇寛海331-A地区ガバナー基本方針「いつまでも美しい地球であるために」にもかなうものとして、芦別ライオンズクラブ(60人)は、空知川に鮭を呼び戻そうと計画した。芦別市立常磐小学校に協力を求め、昨年12月5日、恵庭市の孵化場で受精させた発眼卵3千個と200リットルの水槽を児童に手渡した。以来、全校生徒15人、教職員を始め関係者に大切に見守られ、稚魚は育った。成長するにつれて小分けが必要となり、会員から水槽の寄贈や管理の協力を得たりもした。試行錯誤をしながらも旅立ちの日を迎えることが出来、大変うれしく思っている。

晴れた空の下、「元気で行ってこいよ」「3年後に帰ってこいよ!」と願いを込めて、子どもたちの手で放流された。クラブ・メンバー、児童、教職員、父兄、市の関係者と、90人もの人が見送った。(PR委員長/池田昇)

埼玉県・秩父中央ライオンズクラブ

年間のアクティビティ資金を4日間で獲得する方法

「(アクティビティには) 本来、クラブが計画し、かつ実行するアクティビティ資金獲得事業によってつくり出される資金が充てられるべき」(『ライオンズ必携』) だが、多くのクラブは会員から徴収した費用を事業資金に充てている。全国クラブのほぼ半数で、年間事業資金のうち資金獲得事業で得た資金の占める割合が1割以下に止まる(本誌07年調べ)。チャリティー・イベントによる資金集めにしても、実際は会員のポケット・マネーに頼っているのが現状ではないだろうか。

秩父中央ライオンズクラブ(関根恒孝会長/39人)は市内3中学校でのライオンズクエスト・プログラム導入を始め、青少年育成を中心に活発なアクティビティを展開。クラブが実施するすべての活動の事業資金を、年2回実施する成人病予防検診で調達した資金で賄っている。同クラブも以前はダンス・パーティーやバザーで資金を集めていたが、会員負担が大きく、何かと無駄が多かった。そこで考え出したのが成人病予防検診。メンバーで秩父臨床医学研究所所長を務めるライオン栗原俊雄の協力を得て、15年前にスタートした。当初は会員企業を中心に年1回実施していたが、口コミで一般からの申し込みも増え、10年前からは春と秋の2回、2日間ずつ行っている。

年間の受診者は500人ほどで、しかも受診者の8~9割がリピーター。毎年安定した収入を確保出来ている。

受診者にもメリットは大きい。午後5時45分から7時半までと業務に支障なく受診出来る上、人間ドッグに匹敵する検査項目で、希望者は腫瘍マーカーの検査も受けられる。過去にがんの早期発見につながったケースもあった。クラブは市民の健康管理に貢献しつつ、活動資金も得ているというわけだ。

4月16、17日、第29回目を迎えた検診では2日間で232人が受診した。メンバーは駐車場の誘導から受付、案内、受診項目のチェックなどを担当。それぞれ慣れた様子で役割をこなし、顔見知りには気楽に声を掛ける。受診する人たちもリラックスした表情だ。

会員減少や不況により資金不足に悩むクラブは多い。でも要はアイデア次第ということを、秩父中央ライオンズクラブは証明している。(取材/河村智子)

長野みすずライオンズクラブ

力士たちとの触れ合いに大感激。福祉大相撲長野場所

長野みすずライオンズクラブ（北川哲男会長／65人）の30周年記念事業「福祉大相撲長野場所」が、4月18日（土）長野市オリンピック記念アリーナ「エムウェーブ」で開催された。

3年前からこの企画を温めてきたクラブは、ライオンズにしか出来ないような地方巡業にしようと「福祉相撲」と銘打った。長野市、長野市社会福祉協議会との共催で、65の福祉施設から障害者や高齢者、児童ら１７００人を招待。桟敷席の後方に１２０席の車いす席も用意した。迎えた当日、力士たちの勇姿を見ようと大勢の市民が来場。観客数は招待者を合わせて６５００人の大入り満員となった。

取組が始まる前には長野市少年相撲クラブの子どもたちとの稽古が行われ、琴光喜や把瑠都ら人気力士の巨体に果敢に挑むちびっ子力士の姿に大声援。髪結や横綱の綱締実演もあって、普段は見ることの出来ない力士の姿に観客は皆、興味津々だ。

「福祉」と銘打たれたこともあり、力士たちは旺盛なサービス精神を発揮。一緒に記念撮影をした車いすの子どもや、大きな手と握手を交わしたお年寄りは、満足そうな笑顔を浮かべていた。

「興行というのは全く初めての経験で準備は本当に大変だった」と北川会長。会場内にはそろいのジャンパー姿の会員たちが、受付や案内、弁当の配布などに忙しく立ち働く姿があった。

盛り上がりが最高潮に達した結びの一番は、朝青龍と白鵬の横綱対決。気迫あふれる取組は白鵬に軍配が上がり、福祉大相撲は大成功のうちに幕を閉じた。

（取材／河村智子）

鹿児島県・川内ライオンズクラブ

「白砂青松の森」の再生に向けて

川内ライオンズクラブ（本田文男会長／102人）は3月7日、岩切孔337‐D地区ガバナーの重点目標の一つである「環境保全運動への積極的取り組みと推進」事業の一環として、関係団体に500本の苗木を提供、ボランティアの方々約400人と共に植樹と海岸清掃等に汗を流した。

薩摩川内市の唐浜海岸周辺は、昭和40年代まではクロマツを主体とする白砂青松の森として市民に親しまれてきたが、近年、松くい虫の被害により松林全滅の危機にさらされている。このままでは、潮害から民家や市の特産であるラッキョウを守る保全林としての機能が発揮出来ないばかりか、公園緑地としての魅力もなくなる恐れがある。

イラスト／篠田和夫

そこで薩摩川内市みどり推進協議会では、この松林を白砂青松の森として再生するために、広くボランティアの協力の下、松くい虫に強い抵抗性松の植樹を行い、併せて唐浜海岸と松林内の清掃を行っている。

当クラブではライオネス支部が毎回参加し実績を上げてきたが、今回は親クラブも共にその運営に協賛し参加したものである。（幹事／有馬貢）

香川県・志度ライオンズクラブ

風光明媚な瀬戸内を歩く

木村政昭会長のスローガン「健康で楽しく　ともに汗して　ウィサーブ」の下、志度ライオンズクラブ（60人）は4月26日、今回6回目となる「健康ウォーク」を実施した。平成の大合併による「さぬき市」誕生を記念して始められたものだ。会場は、市民にも親しまれている大串自然公園。瀬戸内海に大きく突き出た大串半島に沿って遊歩道が設けられている。

当日はどんよりと雲に覆われ、前夜からの強風が吹きすさぶ中での開催となったが、午前9時の受付開始には旧志度町内全4校の小学生たちが保護者と一緒に続々とやってきて、昨年を大きく上回る272人の参加者となった。

会長のあいさつ、準備運動の後、クラブ・メンバーを先頭に、3・5キロのコースへと出発。シバザクラの美しいシーサイド・コリドールを抜け、海釣り公園の砂浜、海岸の岩場沿いの階段、若葉の中からあちらこちらに藤やツツジの咲く遊歩道を、笑顔いっぱいで楽しく話をしながら進んだ。右手に「二十四の瞳」の小豆島を眺め、古代ギリシャの劇場をモチーフにした野外音楽広場テアトロンを抜け、四国唯一のワイン工場・さぬきワイナリーではブドウジュースの接待を受けた。お孫さんと一緒にウォーキングを楽しむライオンの姿も印象的だった。

約1時間半後、皆元気に芝生広場でゴール。子どもたちはレクリエーション・リーダーの指導の下でゲームに興じ、お腹をすかせたところで、ライオン・レディー心づくしのカレーライスを頬張った。そして、また来年の再会を約束して散会したのである。

当クラブでは他にもコスモスまつりなど、地域の方々との交流を大切にしたアクティビティを行っている。より多くの参加が得られるよう工夫を凝らし、楽しい、思い出に残る事業にしていきたいと思っている。（青少年・LCIF・市民奉仕委員長／薮内勝広）

北海道·札幌パイオニア ライオンズクラブ

小学生球児にプロ野球観戦プレゼント

札幌パイオニア ライオンズクラブ（坂後信会長／21人）は１９８５年に結成。25周年を数カ月後に控え、青少年健全育成を主目的とした記念事業を企画した。今期札幌ドームで行われる北海道日本ハムファイターズの公式戦50試合のシーズンシート（1席15万円）を15席、年間７５０席を購入し、４６００人が参加する札幌市少年軟式野球連盟の小学生球児たちに試合観戦をプレゼントしようというものだ。子どもたちが将来に大きな夢と希望を抱き、また、プロ野球選手自らスタンドに投げ入れてくれる公式ボールをキャッチして、夢のような感動を味わってくれるといい。

4月～10月最終戦までのシーズンを通し、試合ごとにメンバー2人ずつ、全員が順番に引率者となる。試合開始1時間前までに現地に行き、子どもたちが到着、席に付いたら、観戦時のマナーを説明、ファールボールの注意を促し、当クラブが作った子ども用ゼッケンを付けてもらって、いよいよ楽しく観戦だ。

試合終了間際になるとゼッケンを回収する。球児たちとの楽しかった短いひと時をかみしめ、またの出会いを切願する時間だ。子どもたちは喜びに輝いたまなざしと元気な声で、「おじさん、ありがとうございました。とても楽しかったです」と言ってくれた。この言葉に数時間の疲れも吹っ飛び、記念事業の成功を確信したのである。

（25周年実行委員長／徳川真智）

広島あさひライオンズクラブ

「ふれあいコンサート」開催

3月7日、本年で5回目を迎える我が広島あさひライオンズクラブ（平昭浩司会長／41人）のメーン・アクティビティ、「ふれあいコンサート」を開催した。安芸郡周辺の障害者施設の方々をお招きし、楽器演奏、マジックショーなどを鑑賞頂いて、明るく楽しい思い出を作ってもらおうという事業である。

委員会メンバーを中心に、クラブ諸先輩方にご指導賜り打ち合わせを重ねる中で、L西伸一郎から「招待者と同じ障害を持つ方のピアノ演奏はどうか」という提案があり、本年度の開催趣旨が決定した。

L西から紹介された信濃美知子先生は日本障害者ピアノ指導者研究会広島支部長。ピアノパラリンピック評価委員をされたこともあり、国際ソロプチミスト日本財団社会人ボランティア賞を受賞している。

先生に事業の趣旨をご説明したところ賛同頂き、教え子11人と共に歌唱とピアノ演奏をしてくださった。80人の観客が皆、真剣なまなざしで聴いているのを見て、メンバーは感動、感激、感涙にむせた。

コンサート開催前後には、L嵜浴豊秋の手配により、中国新聞に記事が掲載され、同事業とライオンズクラブについて大いにPRすることも出来た。これからも我がクラブの重点的アクティビティとして、末永く継続出来ることを願っている。

（社会福祉委員長／小野信治）

大阪府・岸和田ライオンズクラブ

がんばる子どもたちに発表の場提供

岸和田ライオンズクラブ（辻宏会長／48人）は3月14日、「夢、未来、明日へ」と題し、岸和田ライオンズクラブデーを実施した。子どもたちが日頃がんばっていること、社会に対して感じていることを大勢の前で発表する場を提供することで、それが明日への励みとなってくれることを願ってのものだ。

浪切ホールを借り、小ホールでは高校生やダンスチームによるダンス発表会や、中学生による意見発表、吹奏楽、合唱。多目的ホールでは、第21回国際平和ポスターの展示会。今年度、当クラブは6校をスポンサーし921点の応募があった。祭りの広場では、献血、身体障害者作業所の展示即売会、模擬店やマジックショーなど盛りだくさん。スタンプラリーの用紙を持った子どもたちが3会場を行き交い、あちこちでダンスの練習をする子や、子どもの歓声、それを見てほほ笑む大人がいて、とても和やかな雰囲気だった。

当日を迎えるまではいろいろあった。例会を打ち合わせの場とし、担当別にテーブルを囲み、それぞれに入念な話し合いを持った。各学校や作業所等との交渉は、忙しい中、手分けして行った。最初は温度差のあったメンバーの意識も回を重ねるうちにだんだんと一つになり、当日はほぼ全員が参加した。子どもたちにがんばってもらおうと考えた催しだが、結束の固まったクラブ・メンバーがいちばん感動した熱い1日だったかもしれない。

「夢を鮮やかに想像し、熱烈に望み、明るい未来を心から信じ、魂を込めた熱意を持って、明日への責任ある行動をしましょう」（実行委員長／小倉正恒）

茨城県・日立ブーケ ライオンズクラブ

ボランティア・メイクに取り組む

今年結成5年目を迎える日立ブーケライオンズクラブ（武内千江子会長）は、女性26人のクラブ。女性の感性と視点を大切に、地域に深く浸透する「ウィ・サーブ」をしようという方針の下、奉仕活動を行っている。

クラブ結成当初から近隣の施設で年に2回の実施を目標に、女性ならではの社会福祉事業「ボランティア・メイク」に取り組んでいる。09年度は、特別養護老人ホームとデイサービス・センター、4カ所の施設で、計10回開催した。

会員は事前に専門家の研修を受ける。1回当たり8人～10人の会員が、15人～20人の方たちのメイクをしている。肌に触れ、他愛もない言葉を交わすことで心が通い合う。ファンデーションや口紅をさすと、思わずこぼれる笑顔。ホームに入所されている方たちが、晴れやかなお顔で敬老会、ひなまつりに参加される。デイサービスの方の帰宅後のうきうきした様子に、ご家族から感謝の言葉も頂く。それらが私たちの喜びとなり、元気ややる気を頂いている。

「いくつになってもメイクという行為は意識を強く刺激し、行動にも影響を及ぼすと考えられる」とする心理学者の研究調査もある。女性ならではのきめ細かい奉仕活動「ボランティア・メイク」を、これからも継続していきたい。

（第4委員会）

東京法政ライオンズクラブ

合同靖国神社清掃奉仕

法政大学ＯＢを会員とする東京法政ライオンズクラブ（上野滋朗会長／31人）は、5年前から毎年2回、東京・九段の靖国神社清掃奉仕活動を主催している。今年も4月11日、オール法政品川支部、法政大学重量上げ部の現役学生、法政大学ボランティアセンター大学関連機関や友好ライオンズクラブとの交流会も兼ねて、盛大にこれを開催した。

当日はちょうど桜の花見の時期でもあり、靖国神社の能舞台では獅子舞が披露され、大変にぎやかな雰囲気であった。参加者全員は宮司に従い粛々と本殿へと進み詔を敬聴し、参拝を終えた後、清掃奉仕活動に取り掛かった。作業着に着替え、本殿前の広場や鳥居の周りなど、汗をかきながら竹ぼうきで掃除した。境内には桜の花びらや茎が大量に散り落ちており、とてもやりがいがあった。

清掃で心を清めた後は、靖国会館・九段の間で昼食のお弁当を楽しみ、すっかりお口もお腹も清められた。話題の遊就館にも多くの参加者が訪館し、日本の戦争歴史を振り返る機会に恵まれ、充実した一日となった。

（前会長／水上久忠）

島根県・浜田マリン ライオンズクラブ

心を一つにする親睦委員会

浜田マリン ライオンズクラブ（牛尾博美会長／30人）では、今年度から親睦委員会を設けている。会員が楽しい時間を持ち、お互いを理解し、認め合い、心を一つにして何事にも取り組んでいこう、という気持ちから生まれた。委員長、副委員長を置き、会員全員が委員である。

会員の畑を借りて「マリン農場」を造り、5月、サツマ芋とピーナッツの苗を植えた。10月にはこれらを収穫。日頃、畑仕事をしたことのない会員は、大きなサツマ芋が出てくる度に歓声を上げた。昼食は早速、収穫物の料理。焼き芋、天ぷら、サツマ芋のチップス、豚汁、ピーナッツ豆腐、栗ご飯、それにちょっぴりのアルコール。楽しい和やかなひと時を過ごした。

魚の街・浜田の子どもたちは、魚のことをＢＢ（ビービー）と言う。11月3日、浜田市主催の「ＢＢ大鍋フェスティバル」では、当クラブは初めて「うまいもん家」を出店した。メニューにはもちろん、マリン農場で収穫したサツマ芋を使っての天ぷらやマリンポテト。また、炊き込みご飯、おにぎり、うどん、コーヒーの他、バザー・コーナーも設け、見事に完売。万歳!!早朝から皆で用意をし、心を一つにして一生懸命働いた1日だった。

収益金は青少年健全育成として、浜田市27の小学校の学校図書へ、白血病で亡くなった新潟の小学1年生、丹後光祐君を描いた絵本『いのちのあさがお』を、新潟から届いたアサガオの種と一緒に贈呈した。光祐君が3カ月間だけ通った小学校で大事に育てていたアサガオから生まれ、増えていった種は、白血病や骨髄バンクについて人々に伝える親善大使として、全国に広まり花を咲かせている。各校でアサガオを育てて、白血病のことや、命の大切さを理解してもらい、アサガオの輪が広がっていくことを願っている。

（ＰＲ委員長／山本鈴子）

愛媛県・北条ライオンズクラブ

スポーツ少年団交流駅伝大会の開催

北条ライオンズクラブ（瀬戸丸正儀会長／32人）は07年度の結成45周年を契機に、北条地域スポーツ少年団指揮者連絡協議会と共催でスポーツ少年団交流駅伝大会を開催している。青少年健全育成の一環として、練習・競技等を通じて気力・体力の向上とチームワークによる協調・共助の精神を養い、ライオンのように強く、正しく、たくましく育ってもらうことを目的とするものだ。

本年も2月11日の建国記念日、県下のスポーツ少年団47チーム４７０人とその父兄、競技関係者ら約千人が、早朝から松山市河野別府文化の森グラウンドに集合した。今回は、松山市出身でアテネ・北京五輪出場選手の土佐礼子さん、プロ野球四国・九州アイランドリーグ「愛媛マンダリン・パイレーツ」選手５人の特別参加を得て、大いに盛り上がった。開会式では土佐選手が「私も小学生の頃、この競技に参加しました。これが私のマラソン人生の原点になっていると思います。皆さんも力を合わせ全力で走ってください」と述べられた。

午前10時30分、瀬戸丸会長の号砲で8区間、計14・1キロの駅伝競技が開始。各ポイントで保護者や地域住民が少年少女の力走に大きな拍手と声援を送った。土佐選手と野球選手も全コースを併走し子どもたちを激励した。第1位となった強豪チームは50分台前半で走覇。次々とゴールする選手たちも温かい拍手で迎えられた。

表彰式では会長から入賞チームにライオンズブロンズ像（北条ライオンズクラブ杯）が手渡されると、場内から大きな拍手がわき上がった。惜しくも入賞を逸した選手も参加賞を手にしながら、「疲れたけどとても楽しかった」「また来年も後輩に引き継ごうね」などと、堅い握手を交わし完走をたたえ合っていたのが非常に印象的であった。

（ＰＲ委員長／杉野靖夫）

沖縄県・宮古ライオンズクラブ

ライオンズクエスト・ワークショップ 宮古島で初開催！

3月21、22日、青少年のライフスキル教育・ライオンズクエストのワークショップが、宮古島で初めて開催された。

ここ数年、同プログラムを学ぶ会員向けの機会が何度か設けられたものの、「学校にどうアプローチしたものか」「その有用性を教育関係者に的確に伝えられるか」などの懸念が先立ち、学校へ紹介するきっかけをつかめずにいた。

そうした状況の中、今回の開催が実現したのは、宮古島市立鏡原中学校の田場秀樹校長が、沖縄本島でモデル校としてプログラムを導入している中学校の生徒たちの学ぶ姿勢を目の当たりにし、「ぜひ我が校にも！」という要望を当クラブに寄せてくださったからだ。田場校長はまず自校の全教諭に対し、ワークショップの受講を要請。その後、島内の全中学校を回り、ライオンズクエスト導入を熱意をもって訴えた。

2日間のワークショップを終え、先生方からは「受けてよかった」「学んだことを実践したいから早く新学期が始まってほしい」など、多くの喜びの言葉が寄せられた。

3連休のうちの土、日曜日に開催、費用は自己負担という条件にもかかわらず多くの教師が参加したのは、それだけ現在の教育現場が深い悩みを抱えていることの証。一方では、それでもなお先生方が並々ならぬ熱意を注ぎ続けていることの現れでもある。

その熱意の受け皿として、ライオンズクエストがうまく機能し、この小さな島の教育現場がその姿を大きく変えていくこと、そして子どもたちが健やかに成長していってくれることを願い、次年度以降も順次開催していきたいと思っている。

（会長／上地茂徳）

333-B地区第5リジョン第1ゾーン（栃木県）

ゾーン合同薬物乱用防止研修会

2月4日、那須塩原市榊原会館において、眞尾博地区ガバナーを始めキャビネット役員、那須塩原警察署長、県関係者、市町教育委員会、養護教諭の先生方、そして多数のライオンズ・メンバーら、総勢140人以上の参加者をもって、ゾーン合同アクティビティ、薬物乱用防止研修会が開催された。

近年、薬物乱用の低年齢化が進み、深刻な事態を迎えている。この状況を解決すべく、日頃から当ゾーンの各クラブ（黒磯、大田原、西那須野、北那須、那須野ケ原、那須ハーモニーシニア）ではそれぞれに青少年健全育成の推進を掲げ、薬物乱用防止認定講師制度の下、小中学校での講演を行っている。

更なる向上を図るには現行の活動を組織化し、講師の質・量の向上、地域に根ざした継続的な啓発活動の拡大・充実を図ることが望まれている。また、警察、薬務課、教育委員会を始めとする公的機関との連携を深め、小中学校に合意を得ることが必須である。この取り組みを、県内他地域の薬物乱用防止活動の参考にして頂くことも非常に有効と考え、今回の研修会開催となった。

「ライオンズに求められる薬物乱用防止活動について」と題し、眞尾ガバナー、警察署長、教育長、養護教諭、薬務課講師、薬物乱用防止認定講師をパネリストに、そして私がコーディネーターを務め、パネル・ディスカッションを行った。また、教育講演、認定講師による講演スタイルの実演など、今後の活動に大いに参考になった。

これから更に公的機関との連携を深め、ライオンズ内でも協力して薬物乱用防止事業を実践していきたいと全員で確認した次第である。

（ゾーン・チェアパーソン／水谷義広）

茨城県・日立中央ライオンズクラブ

薬物乱用防止教室のガマおじさん

「さぁさぁ、お立ち会い」

掛け声と共に始まる、茨城県筑波山の伝統文化・ガマの油売り口上による薬物乱用防止教室。日立中央ライオンズクラブ（52人）のライオン柴田正四郎が、子どもたちが長時間の講習に飽きたり、眠くなってしまうのを見て、何とか集中して聞いてもらえて、印象に残り、いざという時役に立つような方法はないかと常日頃から思案を続け、これだ！とひらめいた。江戸中期、浅草の縁日などで、行者風の衣装をまとい大道芸で客寄せをした後、巧みな口上で薬を売った方法である。

まずは前半。ビデオ放映を終えた後、着物とはかま姿に鉢巻き、腰には名刀・正宗という出で立ちのライオン柴田が登場。それを見ただけで、子どもたちは眠気も吹っ飛び、何が始まるのか興味津々。目の前で、たすきを掛けて見せれば、「おー」とどよめく。

この口上、油売りとは違って、薬物の怖さや薬物乱用の刑罰の重さ、薬物によって破壊される脳、フラッシュバックなどの話を含み、「ダメ。ゼッタイ。」を訴え掛ける。子どもたちがこの先、薬物の悪い誘いに遭遇したり、薬物の危険を感じた時、薬物↓ガマのおじさん↓「ダメ。ゼッタイ。」と連想して、自分自身に薬物を近づけないよう毅然とした態度で断れるようになってほしいという、一途な気持ちで行っている。

今年度、こうして開催した薬物乱用防止教室は25校を超える。今ではライオン柴田は町で会った中学生に、「ガマのおじさん、こんにちは！」と声を掛けられるそうだ。これからも、薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」を訴え続け、一人でも多くの子どもたちを薬物の魔の手から救いたいと、ライオンガマおじさんはがんばっている。

（会長／青木茂）

千葉ライオンズクラブ

先生方による薬物乱用防止教室

千葉ライオンズクラブ（渡辺弘一会長／62人）は3月12日、会長スローガン「感動を呼ぶ　奉仕への参加」の下、千葉市立西の谷小学校で6年生児童と保護者を対象に、薬物乱用防止教室を開催した。先生方の強い要望もあり、子どもたちの小学校生活最後の思い出となるように、先生方に実践講演をお願いした。

当日はまず専門講話として、医師でメンバーのライオン椎名益男から、喫煙の害について、「周りで吸っている子がいたら注意をして」「煙を吸っても害は同じ」と分かりやすく説明。

それからビデオ講座として、「みんなで学ぼう！薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』」のDVDを上映し、薬物の恐ろしさや一度でもやったら止められないことを印象づけた。

先生方による実践講演では、薬物への入り口や誘惑などを若い先生が先輩役後輩役で演じ、児童たちも喜んで見入っていた。上手くいかない時に薬に頼ろうとする心の弱さや、誘惑に応じない強い意志を示した演技は、子どもの心に残ったことと思う。

最後に県の健康福祉部薬務課からお借りした標本で薬物の種類などを説明した後、決して薬物を使わないことを皆で約束した。

子どもたちが危険を回避していく力を身に付けてくれることを切実に願う。先生方からは「大変好感覚だったので、機会があればぜひまたお願いします」と言ってもらえた。そこで子どもたちに常日頃から教えていってほしいという気持ちを込めて「ダメ。ゼッタイ。」のDVDを差し上げた。

後日、児童から101枚の感想文が届き、例会で披露。本当に感動した。今後も薬物乱用防止教室を開催していきたい。

（幹事／藤澤智行）

香川県・高松グリーン ライオンズクラブ

霊場八十八カ所の伝承を刻む石碑を建立

高松市の南部、阿讃山麓に位置する菅沢町には、地元の人たちが大切に守ってきた「四国霊場八十八カ所」がある。開基は慶応2（1866）年と伝えられる。薬師山と呼ばれる小高い山の周辺に88の石仏が安置され、一番札所霊山寺から八十八番札所大窪寺まで並んでいる。

ご存じのように四国霊場八十八カ所とは、真言宗の開祖・弘法大師（空海）が開いたもので、発心の道場、修行の道場、菩提の道場、そして涅槃に至る寺に分かれている。

菅沢町のそれはミニ版というわけだが、近年の度重なる台風を受けて大変荒れており参拝者も少なくなっていた。

そこで、高松グリーン ライオンズクラブ（多田邦弘会長／30人）と地元有志が町おこしにつなげようと、3年前から薬師堂周辺の整備や参道の舗装などを継続的に行ってきた。そして今年2月11日、結成5周年記念事業の一環として、この霊場の由来と伝承を記した大きな石碑を建立したのである。

菅沢町では過疎化の影響で霊場の保存が困難になってきており、当クラブの支援は地元市民に大きな勇気と希望を与えた。除幕式では、地元を代表して久保正利町おこし実行委員長が、「参道の整備だけでなく立派な石碑まで建立して頂き、感謝の念でいっぱいです。未来永劫大切に守っていきます。これを機に貴クラブと菅沢町は心の通った太い絆で結ばれたと信じます。微力ではありますが、私たちもお手伝い出来ることがあれば必ず協力致します」と万感の思いで語ってくださった。

ライオンズの目的「地域社会の生活、文化、及び公徳心の向上に積極的に関心を示す」にもつながる、記念事業にふさわしいものになったと自負している。

（環境保全委員長／久保征四郎）

愛知県・江南ライオンズクラブ

クラブ結成50周年を迎えて

江南ライオンズクラブは1959年に28人のチャーター・メンバーにより結成された。多岐にわたる活発な活動を通じて仲間を増やし、会員数は94年の136人をピークに、現在は110人。334-A地区ではトップ、全国では8位（3月末）を誇る。50周年を迎えた今年度は、例年にもまして意気を高めて活動している。

当クラブには「市民の集い」という特筆すべき事業がある。江南市民の文化意識の高揚を推進することを目的に、時の市民委員長が知恵を絞り西へ東へ奔走。これまでに狂言、バレエ、京劇、ロック歌舞伎、コンサート、オペラ、演劇、落語、手品、影絵、実験教室等々、枚挙に暇がないほど多くの催しを行ってきた。昨年11月25日には第23回となる集いを開催。稲垣清明地区ガバナーにもご臨席頂き、劇団四季のミュージカル「人間になりたがった猫」を上演した。公演が近づくにつれ、整理券に応募が殺到。当日は江南市民文化会館の大ホールが満席となり、大好評だった。

1月21日には記念事業の一つとしてフラワーパーク江南に時計塔を寄贈、除幕式を執り行った。

3月7日は江南市民文化会館にて夜回り先生こと水谷修氏の「あした笑顔になあれ」の講演会を開催。先生の温かい心に触れて、来場した皆さんは大いに感動されていた。

1年間に及ぶ立案、計画、実行と努力を重ねてくださった、伊藤義弘結成50周年記念大会委員長及び酒井幹治大会幹事を始めとする役員各位に感謝申し上げる。これからも私たちは会員同士お互いの信頼と友情の絆を固め、ボランティア活動を通して地域社会発展のため一層努力していきたい。

（会長／永田紘一）

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）

●投稿要領→56ページ

我が家のK君

鷹栖　律子（栃木県・那須ハーモニーシニア）

小学5年生に進級した我が家のK君は、そろそろ思春期に入り始めたらしい。

今までは入浴後、裸のまま居間のテレビの画面にかじりついていたのに、この頃は人前で着替えをする姿など見せなくなった。注意されたりした時など、涙を浮かべてしょんぼりしていたのに、近頃は負けずに口答えをしたり愚痴をぶつけてくる。そんな様子を見る度、日々成長していることを実感する。

彼は実親を知らない。生後8日目から乳児院で育てられ、2歳数カ月の時、養育里親である我が家に来た。

8年前、児童相談所から養育を依頼され、私は初めて乳児院を訪れた。彼は保育士さんの胸にしがみついて、私を一瞥もしなかった。自分に起きている状況を直感的に察知したのだろう。最後まで私に顔を向けなかった。私は何度も乳児院に足を運んだ。しばらくして彼は、初めて保育室のガラス戸越しに私を見つめて指差した。

「K君にはこれまで訪問者がなかったので、自分に面会者が来たことがうれしいんですよ」

担当の保育士が言った。その言葉で私は養育を決意した。

初めて我が家に来た日、彼は猫や犬たちの歓迎を受けて大泣きをして逃げ回った。私は、保育士の言ったことを思い出した。

「施設で暮らしていると経験が限られます。縫いぐるみの犬や猫は知っていても、ほえたり動いたりする本物に触れ合う機会が少ないのです。ニンジンやジャガイモにしても、料理されてお皿にあるのが本物の形だと思ってしまう。だからこそ一刻も早く里親さんが見つかり、普通の家庭生活を体験させたいのです」

生活が始まると、多くの問題に直面した。幼いKにとって環境の変化は大きな重圧だっただろう。「試し行動」や「赤ちゃん返り」など「愛着障害」に悩まされたものだ。

乳児期から施設で育った子にはこれらはつきものだ。どんなに優れた施設だろうと、どんなにベテランの保育士だろうと、家庭や親には代われない。生まれた時から無条

イラスト／小川和政

獅子吼

件の愛情に包まれ、抱っこされ、語り掛けられてこそ愛着関係は形成されるのだ。

Kの場合、大人不信や試し行動は激しかった。遊んでいる時に「食事だから手を洗うよ」と声を掛けた一言に怒り出す。一緒に洗おうと手伝えば怒りは一層募る。地団太を踏んで暴れる。構わなければ怒る。怒りは次々と連鎖し、何が不満なのか分からなくなる。怒りに理由はないのだ。

Kにとっては、自分が本当に大人から愛されているのかを試すための感覚的な行動なのだ。児童心理や発達心理学など、里親としての研鑽は積んでいるつもりでも、目の前の現実に振り回され「もうギブアップ！」と何度叫んだことだろう。

抱きしめ、歌を歌い、絵本を読み聞かせ、彼の芽生えをひたすら信じて待ち続けた。

こんな日々を超えて、今、彼はかけがえのない家族になった。学校大好きなサッカー少年として伸び伸びと成長した。

18歳まで、我が家の大切な家族として、今後もいろいろなドラマを演じるのだろう。

◆

現在、Kのように虐待やネグレクトにより家庭分離を余儀なくされ、里親家庭や養護施設で暮らす子どもたちは3万6千人を超える。次代を担う大切な宝である彼らこそ健全に育てられなければならないのに、現状は児童福祉がいちばん遅れをとっているとも言われている。

我々のクラブでは結成当初から地域の児童養護施設への支援活動を実施し、5周年記念事業には施設の子どもたちの教育募金へドネーションした。また、夏のスイカ割りや小運動会での彼らとの交流はクラブの恒例事業となり、触れ合いを深めている。

青少年健全育成はライオンズクラブの重要な活動である。施設等で懸命に生きる3万6千人の子どもたちに、温かい目を向けてほしい。自分たちの権利の主張を出来ない彼らの代弁者は、今を生きる我々大人であるのだから。

RP・あぁるぴぃ。って何？

高橋　輝男（千葉）

残冬の2月28日、市原ライオンズクラブの45周年記念式典に参加しました。記念事業の一つに日本盲導犬協会に対する支援（寄付金贈呈）がありました。333-C地区内においても盲導犬の必要性が認識され、支援の輪が徐々に広がりつつあります。

昨秋の千葉ライオンズクラブ45周年では「障害を持つ人たちに夢と希望を与えられるような音楽を届けたい」と盲導犬グレースと共に奔走し、活躍されている、作曲家であり演奏家でもある前川裕美さんの特別講演がありました。彼女は、少しずつ視力が衰え、やがては光を失う網膜色素変性症という病気なのです。

数年前、船橋東ライオンズクラブの記念式典で千葉県アイバンク協会への支援金の贈呈があり、参加しました。同じテーブルに着いた女性の傍らに、茶色の盲導犬アンソニーがおとなしく座っていました。祝宴の時間となり、その女性に話を伺うと、彼女は、「私は以前、白杖を持って一人で外出していました。そんなある日、駅のプラットホームから線路上に転落してしまい、その日を境に外へ出るのがものすごく怖くなり、ノイローゼ状態で家の中で悶々とした日を過ごすようになってしまいました。

1年半ほどそんな状態が続き、心配した家族から盲導犬との共生を勧められ、やっとその気になり、アンソニーという良き伴侶と出会いました。今日、埼玉県からここ

の会場（千葉県船橋市）に来られたのもアンソニーのおかげです。網膜色素変性症という病気で目が不自由になり、盲導犬に支えられた日々を過ごすようになりました。その盲導犬を普及させるための一助にと、今日はここに来たのです」

と話してくれました。

視力障害者へ盲導犬を贈ることも非常に大切なことです。一方、視力障害者にならないための援助や支援もまた大変重要なことだと思います。

『RP・あぁるぴい』をご存じでしょうか？日本網膜色素変性症協会（JRPS）の広報誌のタイトルです。この協会は1994年5月、視覚障害者自身と学術的研究者並びに支援団体（ライオンズクラブ等）の三者により組織されたもので、広報誌の発行や患者交流会などを行っています。更には、医学的な側面から原因の究明と治療法の研究・開発を行い、この病気を根本より解消するため、全国の著名な研究者への研究費の助成をしております。

ある日突然、視覚障害者への道を歩まなければならなくなるかもしれない健常者のためにも、医学的な研究を継続し支援することは価値ある大切なアクティビティだと認識しました。

今すぐ出来ること。今すぐやらねばならないこと。また、継続は力なり。視聴力の保護について、改めて考えさせられました。

ライオン勧山弘「日本版ノーベル賞」受賞

猪原　恒男（広島県・加計）

第5回ヘルシー・ソサエティ賞（平成20年度）のボランティア部門をNPO日本アイバンク運動推進協議会最高顧問を務めるライオン勧山弘（静岡県・沼津ライオンズクラブ）

獅子吼

が受賞されました。いわば日本版ノーベル賞で、去る2月25日、東京・帝国ホテルに皇太子殿下ご臨席の下、厳選された6人の方々（医療、ボランティア、教育、公務員の各分野）が受賞式に臨みました。

日本ライオンズもさることながら、アイバンク運動に真剣に取り組む全国のライオンズクラブ及びアイバンク運動を続けている人々にとって、この上無い喜びです。

ヘルシー・ソサエティ賞は世界的な製薬会社ジョンソン＆ジョンソン社と㈳日本看護協会の共催、外務省、厚生労働省、文部科学省、㈳日本医師会、㈳日本病院会が後援し、平成16年に創設。毎年全国から寄せられた推薦候補者の中から、厳正な審査によって受賞者が決定されます。

ちなみに審査委員は有馬朗人元文部大臣、岩男寿美子慶応義塾大学名誉教授、佐藤ギン子元駐ケニア大使、高久史麿自治医科大学学長、日野原重明聖路加国際病院理事長、福田博元最高裁判事、古川貞二郎元内閣官房副長官、細川佳代子スペシャルオリンピックス日本名誉会長。諮問委員には秋山洋、猪口邦子、宇井理生、角道謙一、川崎二郎、近藤鉄雄、斎藤邦彦、坂口力、佐藤嘉恭、清水嘉与子、下村満子、袖井孝子、津島雄二、仲村英一、丹羽雄哉、畠山襄、林義郎、広中和歌子、福島豊、南裕子、森英恵、森岡茂夫の各氏が名を連ねています。

勧山弘は１９６４年、初めて献眼に出合い、以来小さな献眼運動としてご家族から献眼登録をし、沼津ライオンズクラブに広がるや活動が本格化、全国的活動の礎となりました。

71年全国で初の「献眼決起大会」を開催、全国から熱心な献眼運動推進者が集い、実質的「全国大会」の幕開けとなりました。以来、毎年全国各地で「献眼推進全国大会」を続け、77年からはＮＰＯ日本アイバンク運動推進協議会最高顧問として、そのすべての会場で「光と愛と」のタイトルで60分～90分の基調講演は欠かさず、またその間ほとんど毎年、どこかのクラブの周年行事に招請されること枚挙にいとまなく、献眼啓発を続けてこられました。90年からは中国にアイバンクをと、主に黒竜江省の大学を中心にその設立を実現されました。

その結果のこの度の受賞は、ライオンズクラブの外の世界から注目を受けたもので、献眼運動推進者の一人として最高の栄誉、否日本版ノーベル賞に値するものと心より称賛致すところです。

私と趣味の切手収集

梅沢　忠男（東京新宿北）

私はライオンズクラブ、ロータリークラブ等に関する世界各国の記念切手の収集を40年余りにわたり趣味として行っている。

ちなみに、ライオンズクラブ国際協会創立50周年（１９６７年）を記念して世界41カ国から発行された記念切手は、完集している。

なお、８年先の２０１７年には、国際協会が創設１００周年を迎え、１１０カ国以上の国々から記念切手が発行されるのではないかと今から楽しみにしている。

過去、日本においてはライオンズクラブ関係の記念切手が、４回発行されている。

まず、１９６９（昭和44）年７月２日に、東京で第52回ライオンズクラブ国際大会が開催されるのを記念し、記念切手が一種発行された。意匠：ライオンズクラブ国際協会マークとバラ。

第２回は１９７８（昭和53）年６月21日に、やはり東京で第61回国際大会が開催さ

れるのを記念し、一種が発行された。意匠：養源院（京都）所蔵　俵屋宗達筆　杉戸絵唐獅子図（重要文化財）。

第3回は2002（平成14）年3月1日、日本ライオンズクラブ50周年記念と、第85回国際大会が同年7月9日から大阪ドームを主会場に開催されるのを記念し、切手が一種発行された。意匠：ゴング及び背景唐獅子。

第4回は02年7月1日、大阪ドームを主会場に第85回国際大会が同年7月9日から開催されるのを記念し、一種が発行された。意匠：大阪ドームと難波橋欄干の獅子が描かれている。

私が、ライオンズクラブ切手の収集を始めたのは、ライオンズクラブに入会間もなく、フィリピンで発行された古いライオンズ切手のことが『ライオン』誌に紹介され、その記事がきっかけであった。

また、国際ロータリークラブ関係の切手（ロータリークラブにおいても国際大会を記念して4回記念切手が発行されている）や、主にハンセン病の歴史、ヘレン・ケラーの一生、エイズ関係、薬物乱用防止関係、障害者関係、更には日本の年賀切手の題材である郷土玩具を今年度まで81体のうち79体保有残2体で完集している。

過日、趣味の切手即売会におけるオークション会場で、ライオンズクラブ関係のラペルピンや、タイピンなどの用品が、出品されていた。それらの品物はライオンズクラブ在籍中、活躍された方のもので、アワード等金銭に換えられない記念品も見受けられたが、何かの事情でオークションに出品されたのではないかと思われる。このような貴重な品々を散逸させずに一同に集め、後世に残すことが必要ではなかろうかと実感した。そのためには、これらの物品の保存会を設けるべきと考える。

やがて（8年後）ライオンズクラブとしての創設100周年を迎えられることになると思う。今から準備をしても決して早くはない。ライオンズクラブ・コレクション・記念品保存会に関するご意見をお寄せ頂きたい。

◆

※日本におけるライオンズクラブの記念切手（4回発行）、国際ロータリー記念切手（4回発行）計8種セットにして50人の読者にさし上げます。（応募要領等の詳細は56ページ参照）

Close up

子どもたちと芸術を結ぶ 橋渡し役になるのが私の使命

長年、教師をやりながら制作活動を続けてきたので、子どもたちと芸術を結ぶ橋渡し役になりたいという気持ちが強いんです。美術館館長をお引き受けしたのも、そんな思いがあったからです。子どもたちの感性を育てる上では、幼い時、特に3歳前後の教育がとても大事だと思います。そのため美術館として去年から、感性をより豊かにする活動の一翼を担っていこうと、保育園に出向いて子どもたちと一緒に物作りをしています。

私が館長になった時には、市民に美術館が受け入れられておらず、入館者が少ない美術館だったんです。それで、まずは市民の皆さんに足を運んでもらうことを目標にして、それから徐々に、いろいろな企画展を催すようになりました。今は市民の方も年間パスポートを購入して足を運んでくれるようになりましたし、学校への出前講座を続けるうちに、休みの日に子どもたちが一人で見に来てくれたり、とてもうれしい現象が起きています。今、年に7回ぐらい企画展をやっているんですけど、それを小さいお子さんから年配の方まで、より多くの方に見てもらうことによって、生活に潤いを持って頂いたり、子どもたちには感性を養ってもらえたらいいなあ、と思っています。また、それを皆さんに提供する責任が、美術館にはあると思っているんです。

1999年に国際芸術交流会を起ち上げて、インドネシアやフランスの作家たちと一緒に、国内外で交流展を開いてきました。展覧会を見てもらうことも大事ですが、いちばんの目標は、展覧会を開く地元の方と芸術を通して交流することでした。インドネシアでは、学校でワークショップをやらせてもらい、日本の文化を子どもたちに紹介出来、とても好評でした。今は仕事柄なかなか動けないんですが、退職したらまた続けていきたい活動です。その時はライオンズ会員として、恵まれない国の子どもたちに絵を描く道具を届け、一緒に絵を描いたり物を作ったりしていきたいと思っています。国内にも、絵を苦手にしている子がいます。そうした子どもたちのために、仲間と一緒に全国キャラバンをやり、子どもたちと触れ合いながら、アートって楽しいんだよ、ということを伝えていくことも計画しています。将来はそれをライオンズの活動と共にライフワークにしていきたいと思っているんです。

土佐和紙にパラフィンと蜜蝋を用い、ろうけつ染めに似た手法で制作した作品『水面』

■北泰子

きた･やすこ　1954（昭和29）年高知県香美郡野市町（現香南市）生まれ。高知とさみずきライオンズクラブ。77年高知大学教育学部特設美術･工芸課程卒業。19年間、高知市内の中学、高校、高知大学で非常勤講師を務めた後、高知大学教育学部大学院で美術教育を専攻し、03年から香美市立美術館館長。05年度クラブ会長。国際芸術交流会事務局長。

写真／田中勝明　構成／鈴木秀晃

陶のアーティスト･杉浦康益さんの
作品展「陶の花たち展」にて

エブリデー・ヒーロー

本欄は今月号をもって終了します。数々の「ちょっといい話」をお寄せくださった皆さん、ありがとうございました。

イラスト／吉田悦子

「偶然の奇跡」

7年前、334-B地区YE委員長を務めていた時のこと。334複合地区で受け入れた冬季YE生の中にベジタリアンの条件付きのためホスト・ファミリーに敬遠されたマレーシアの男子がおり、私がその第一ホストとなり、第二ホストは七宗ライオンズクラブのライオン大矢啓資にお世話になりました。「残り物に福がある」と言いますが、彼はとても明るくて素直で、家族と共に親しく近在へ旅行をしたことが思い出されます。帰国後もメールを交換してきましたが、彼はニュージーランドで5年間勉学し、本年シンガポール航空へ就職しました。

4月になって再び我が家へ来たいとメールが入り、5月18日に再会して交流を深め、彼の希望でライオン大矢ライオン宅にも1泊することになりました。ライオン大矢は七宗ライオンズクラブが解散したため、現在は川辺ライオンズクラブに在籍されているとのこと。その奉仕精神に改めて感心しました。ライオン大矢宅で過ごした元YE生を迎えるためホテルで待ち合わせ、しばし歓談の末お別れしパーキングへ行きました。ところがゲートが開きません。困っているところ、近くに居合わせた紳士にホテルでチェックアウトが必要とアドバイスを頂きました。そこへ、ゲートが開かず困っているのに気づいたライオン大矢が駆け付け、その紳士に懐かしそうに話しかけておられました。聞きますと、なんとその紳士は7年前、ライオン大矢がホスト・ファミリーを受けられた時のクラブ会長とのこと。信じがたい偶然の出会いでした。

福村善光／岐阜南ライオンズクラブ

「母校での講演」

3月16日、母校の八尾市立大正中学校で薬物乱用防止講演を行いました。薬物乱用防止教育講師認定の講習を受け、今回が15回目の講演です。中学校では初めてで、今までの小学校とは違う緊張感を覚えました。

会長あいさつに続いて私の講義。まず開口一番、「おっちゃんのこと知ってますか？」と聞くと場内が少しざわめきました。「そうです。君たちが小学校6年生の時に『薬物乱用ダメ。ゼッタイ。』の講義を聞きましたね。覚えていますか？」。だんだんと緊張が解けて、生徒たちにも私にもゆとりが出るようになりました。私とライオン丸矢道明が約35分ずつ講義し、約1時間と少し予定時間をオーバーしましたが、生徒たち、先生たちの大拍手で幕を閉じました。終了後、出席したメンバー全員でお茶を飲みながら、「良かったなあ。次はあなたの中学校で」と話し合いました。

数日が過ぎ、生徒たちの感想文を受け取りました。その内容の濃さにびっくりし、376枚全部にじっくり目を通しました。

「ライオンズクラブのおっちゃんたちありがとう。私も大人になったら皆さんのように困っている人たちを助けたいと思った」という文章の多かったこと。みんなが大人になって、我がクラブに入会してくれる頃には、私も天国から見てまっせ！

思い起こせば、私も息子も同じ中学校を卒業している。孫も通えば3代目となる。今後も日本の、地域の、両親の宝物である子どもたちのためにこの活動を続けます。

正木猛司／大阪府・八尾中央ライオンズクラブ

ふるさと探訪

愛知県碧南市

もち米から生まれる甘い露は、料理に奥行き与える名脇役

■文／砂山幹博　写真／田中勝明

蒸し上げたもち米に、こうじ米と自家製の米焼酎を混ぜれば仕込みは完了

それは甘くて高貴なお酒であった

最初のページの、グラスに注がれた琥珀色の液体。ウイスキーにも見えるが、実はこれ、キッチンでおなじみのみりんである。調味料のイメージが強いため、グラスより大さじ小さじが似合いそうだが、みりんにはお酒として親しまれてきた歴史がある。

かつては密淋酒とか美醂酒と呼ばれ、宮中などごく限られた人たちの間で甘い口当たりの高級酒として珍重されてきた。アルコール度数は14％程度と清酒並み。正月に飲まれる甘い薬酒「お屠蘇」はその名残で、みりんがベースに使われている。

「みりんを舐めたが、全然酒じゃない」

そんな声も聞こえてきそうだが、しばらくは「みりん＝お酒の一種」という前提でお付き合い頂きたい。

みりんの原料は、もち米と米こうじである。これに焼酎を混ぜる点を除けば、清酒造りによく似ている。西三河一帯は醸造に適した水に加え、矢作川流域で豊富に収穫される米、麦、大豆などの原材料、更に醸造品を船で出荷する港にも恵まれていたため、200年以上も前から清酒や味噌などの醸造業が盛んであった。特に江戸市中で消費される酒の産地として、数多くの酒造業者が集まった。三河のみりんは、酒蔵と深いかかわりを持ちながら、この地で独自の発展をしていく。

「三河の酒は、原材料の水が柔らかいため発酵が盛んになり、辛口になりやすい。戦前までの造石税（出荷時ではなく、酒が出来た時点で課税された）の時代には、この辛い酒に甘さを加えるためにみりんが使われました」

発酵途中のもろみに櫂を入れて攪拌する

西三河の碧南で明治43年以来、伝統的なみりんの製法を貫く角谷文治郎商店の角谷利夫社長は三河みりんの特徴をこう説明する。他の地域では、清酒を作るかたわらみりんが造られたが、三河では焼酎造りの原料としてよく使われた酒粕が容易に入手出来たことから、みりん業者の多くが酒蔵から独立。今日もほとんどが専業でみりんを造っており、西三河は業者数も全国で最も多いみりんの銘醸地となっている。

仕込みは花の咲く季節

寒仕込みの清酒と違い、みりんの仕込みは花の季節。梅や桜が咲く春と、菊の薫る秋である。角谷文治郎商店でも、春の仕込みの真っ最中であった。

仕込みは、主原料である蒸したもち米と2日がかりで造った米こうじに、自前で醸したアルコール度数40％を超える焼酎を混ぜ合わせる。そのせいか醸造所内には、微かに焼酎の香りが広がっていた。

「昔は酒粕を使いましたが、今は米から焼酎を醸します。もち米と米こうじを焼酎に漬け込むことで、もち米が持つ自然の甘さを引き出します」

角谷さんが話すように、仕込みに焼酎を使うのがみりん造りの大きな特徴である。焼酎には米の発酵速度を遅くする働きがあるので、春の温かい時期で60日ほど、秋冬の寒い時期で約90日という長い時間を掛けてもち米を適度な発酵状態に出来る。なお、みりんを造るための焼酎を一から手造りしているみりん醸造所は、全国でも類を見ない。

2～3カ月の間、タンクの中で溶解したもろみは酒袋に詰めて搾られる。搾られたばかりの液体は、どぶろくのように白濁した状態。見事なほど甘いが、みりん特有の琥珀色はまだ付いていない。これから更に200～300日間、タンクの中で熟成を重ね、みりんになる日を待つ。

みりんをめぐる紆余曲折

みりんが日本で造られるようになったのは戦国時代。甘味の酒として飲まれていた話は前述したが、調味料として利用されたのは江戸時代に入ってから。砂糖よりも入手しやすかったため、江戸期を通して甘味料として重宝された。最初に使い出したのは割烹の料理人。ご存じの通りみりんを使うと、料理の照りやつやが増し、仕上がりが美しくなる。更に、素材のおいしさを引き出し、味を良く浸透させ、煮くずれを防ぎ見た目の良さを引き立てるなど、料理に欠かせない効果を発揮した。

黒塗りの大きな建物は、みりんの貯蔵熟成蔵。三河みりん発祥の地である大浜地区を代表する景観だ（撮影協力：九重味醂）

仕込みは花の時期だが、出荷は季節に関係なく年中行われている

みりんに転機が訪れるのは、太平洋戦争中のこと。米不足の中、みりんは贅沢品だということで昭和18年から8年間、製造が禁止に。その後、再開するも依然厳しい食糧事情。やはり贅沢という理由で高い酒税がかけられた。昭和30年頃、一升瓶1本の売値は千円であったが、うち762円が酒税であった。高価なためプロユースに限られていたみりんは、昭和31年からの3度にわたる減税で、ようやく家庭用調味料としての地位を獲得する。

昭和40年になると、今度は原材料の米の値段が政治的に引き上げられた。

これを機に、みりん醸造所は限られた米でいかに量を造るかという試行錯誤を始める。かつては「米一升、みりん一升」と言われ、使った原材料と出来上がるみりんの量は同じだったが、米一升でみりんを四升も五升も造ることが出来るようになったのだ。

焼酎を造る手間や、もち米を熟成させる時間を短縮するため、安価な醸造用アルコールや醸造用糖類で代用。結果、昔ながらの本格みりんに対して、4～5倍に増量された「新式みりん」と呼ばれるものが登場し、お店の棚に同じ「みりん」として並ぶことになる。

「税法上は同じ『みりん』でしたが、正しい商品情報がないまま売られたので、業界はもちろん、流通、消費者の間で混乱が生じました」（角谷さん）

更に、スーパーが流通の主流となった昭和50年以降、本格みりんでも新式みりんでもない、みりん類似の調味料が支持されるようになる。これらは「みりん風調味料」と表示され、現在もスーパーなどでよく見られる。舐めても酒の味がしないのは当然で、ほとんどがアルコール度数1％未満に抑えられている。

「酒販免許を持たないスーパーなどでも扱えるとあって販路が拡大。『みりん』の名がここまで広がったのは間違いなくこのみりん風調味料のおかげです。ただ、もち米を丁寧に醸造して造ったみりんの甘さは、みりん風調味料では味わうことは出来ません」

と角谷さん。

味見をしてみたが、確かに砂糖に比べ非常にすっきりした甘さである。この甘さに世間も気付いたようで、角谷

さんたちが造る本格みりんが今、脚光を浴びている。甘い香りに包まれた醸造所を覗くと、黙々と仕込みの作業が行われていた。

■取材協力：角谷文治郎商店
http://www.mikawamirin.com

郷土自慢・クラブ自慢

工業県のイメージが強い愛知だが、農業生産高は全国でも上位クラス。特に碧南市のある矢作川河口域は、上流から流されてきた砂が堆積した畑が広がり、ニンジンやタマネギを中心とした露地野菜やイチジクの産地となっている。「あおいパーク」は、そんな碧南の畑のど真ん中に作られた農業と消費者を結ぶ体験型交流施設。産直市やレストラン、ハーブのお風呂が楽しめる施設として市民に親しまれている。

▼碧南ライオンズクラブ（梶浦正雄会長／84人）＝1964年12月12日結成／スポンサー：西尾ライオンズクラブ

読者プレゼント

ライオンズとロータリーの記念切手8種セットを読者50人に

「獅子吼」（46ページ）の「私と趣味の切手収集」（ライオン梅沢忠男）で紹介された日本におけるライオンズクラブ記念切手（4回発行）、国際ロータリー記念切手（4回発行）計8種セットが50人の読者にプレゼントされます。

三河みりんを読者5人に

「ふるさと探訪」（51ページ）で紹介した愛知県碧南市、角谷文治郎商店の「三州三河みりん」（700ミリリットル）を5人の読者にプレゼントします。

純天然醸造でじっくりと1年以上時間を掛けて熟成したみりんには、キレのよい上品な甘さと濃醇な味わいがあります。

応募要領：はがきに「切手」「みりん」のいずれか希望の品を明記し、住所、氏名、電話番号、クラブ名をご記入の上、ライオン誌プレゼント係あてにご応募ください。本誌ウェブマガジン(www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=0) からも応募出来ます。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は7月末日。応募多数の場合は抽選。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

●訂正とお詫び

本誌6月号で以下の誤りがありました。32ページ「国際協会各種ラペルピン」で、一般会員用の襟章に関する文中にある「オフィシャルクラブサプライ」は、正しくは「オフィシャルクラブサプライ在庫リスト」でした。54ページ「ふるさと探訪」の下段「昭和28（1889）年」は「昭和28（1953）年」でした。

ライオン誌事務所来訪者芳名録

月	日	クラブ	氏名
5	13	東京江戸川東	大塚 和宏
5	14	宮城県仙台エコー	錦戸光一郎
5	21	東京荒川	稲毛田正勝
5	21	宮城県南三陸志津川	高橋 渡
5	21	宮城県南三陸志津川	阿部 雄一
5	21	宮城県南三陸志津川	小坂 克己
5	21	宮城県南三陸志津川	藤谷 廣司
5	22	東京	池崎 道男
5	22	東京	木場 芳紀
5	22	東京	森田 康雄
5	22	東京	岡田光一郎
5	22	神奈川県横浜	遠藤 一
5	22	神奈川県横浜	金子 幸男
5	22	神奈川県横浜	木村福太郎
5	22	神奈川県横浜	内田 吉則
5	22	神奈川県横浜	打木 宏
5	22	神奈川県横浜	山口紀久雄
5	22	兵庫県神戸ホスト	熊野 幸三
5	22	兵庫県神戸ホスト	岡村 武和
5	22	兵庫県神戸ホスト	大石 巖
5	22	大阪	藤井 淑弘
5	22	大阪	香川 憲次
5	22	大阪	太田 武
5	22	京都	脇山 良之
5	22	京都	永楽善五郎
5	22	京都	村上紘一郎
5	22	京都	岡本 晃
5	22	京都	吉村 重生

ライオン誌投稿要領

▼原稿は誌面の都合で編集したり、掲載出来ない場合があります。原則として原稿の返却は致しません。返却希望の場合はその旨を明記してください。

▼電子メールでの写真投稿は長辺1,600ピクセル程度のJPEG最高画質で。

▼住所、氏名、クラブ名を明記。

■**クラブ・リポート**32〜42ページ：アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。関連写真があれば添付。

■**獅子吼**43〜47ページ：会員及びその家族によるエッセー、提言など。1,600字程度。

送付先：
〒104-0045
東京都中央区築地2-2-1
築地細田ビル7階
ライオン誌事務所
Fax：03-3546-2630
E-mail：edit@thelion.jp

2009年8月号予告

THEME **国際大会**

7月11日の国際大会閉会式で地区ガバナーが正式に就任、いよいよ新年度がスタートする。8月号はミネアポリス国際大会のリポートや、国際会長プログラムなど新年度にかかわる記事を集めた特集号。新国際会長と日本選出の新国際理事のプロフィールも掲載。

公式版『ライオン』誌編集者会議

5月9～10日、アメリカ・イリノイ州オークブックのハイアットロッジ・マクドナルドキャンパスで、各国語版『ライオン』誌編集者会議が開催され、出席した。

会議には、アルバート・ブランデル国際会長、エバハルト・ヴィルフス第1副会長、国際理事会PR委員会メンバー、18カ国21人の公式版編集者、及びピーター・リンチ国際本部長（ライオン誌総編集長）を始めPR・コミュニケーション部の職員など、約30人が出席した。

会議初日はいくつかのテーマで本部職員によるプレゼンテーションと各国編集者とのディスカッションがあり、2日目は国際会長のスピーチ、グループ・ディスカッション、各版の成功例や課題の発表、第1副会長による次年度国際プログラムの概要説明があった。

私からは、日本語版の5月号特集「明日を開く若い力」のため、ライオンズ若手会員フォーラムを委員会で主催したことを披露し、各準地区で話題となり、広まっていることを報告した。

また、2009年1月号からリニューアルした本部版の表紙が、国際理事会方針書と整合性が取れていない点などについて質問した。他の編集者からも理事会方針書についていくつか指摘が出された。その結果、本部でも整合性が取れていない点を認め、次回以降の国際理事会で、方針書の見直しを行う旨回答があった。

その他、本部版が進めている事項（アクティビティ事例を多く掲載する・良い写真を集めビジュアル化を図る）は、ここ数年の日本語版委員会でも取り組んできたもので、今後もこの流れを継続し、更に推進することが協会の方向性とも合致することを確認出来た。

今回、他国の『ライオン』誌を拝見する中で、日本語版は写真・編集・印刷とも最高の出来だと自負した2日間だった。

ライオン誌
日本語版編集長
◉
坂井正
（新潟県・新発田菖城）

Official publication of Lions Clubs International

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages - English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish, Indnesian and Thai.

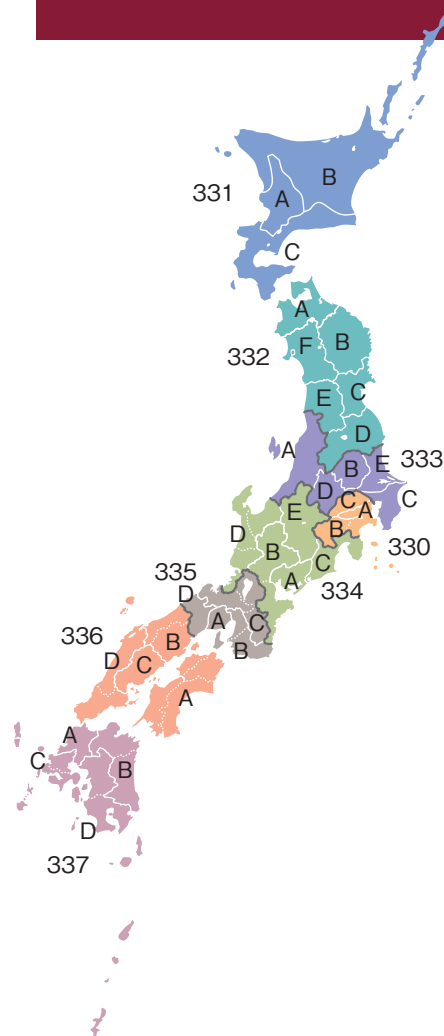
Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

日本のライオンズ

2009.4.30　ServannA報告による

地区	都道府県	■クラブ数	■会員数	期首から の入会	期首から の退会	期首から の増減
330-A	東京	202	5,578	808	379	429
330-B	神奈川・山梨・東京	191	5,311	435	351	84
330-C	埼玉	104	2,779	158	153	5
330	計	497	13,668	1,401	883	518
331-A	北海道（道央）	77	2,752	226	213	13
331-B	北海道（道北・道東）	91	2,710	137	183	-46
331-C	北海道（道南）	59	1,911	143	182	-39
331	計	227	7,373	506	578	-72
332-A	青森	68	1,924	108	159	-51
332-B	岩手	55	2,182	567	112	455
332-C	宮城	81	1,539	101	119	-18
332-D	福島	77	2,106	166	159	7
332-E	山形	58	1,946	136	120	16
332-F	秋田	52	1,413	167	90	77
332	計	391	11,110	1,245	759	486
333-A	新潟	79	2,986	171	202	-31
333-B	栃木	57	1,448	88	68	20
333-C	千葉	133	3,584	235	254	-19
333-D	群馬	55	2,154	235	128	107
333-E	茨城	81	3,049	150	159	-9
333	計	405	13,221	879	811	68
334-A	愛知	121	5,844	393	315	78
334-B	岐阜・三重	86	3,998	326	229	97
334-C	静岡	84	3,375	200	193	7
334-D	富山・石川・福井	101	4,288	254	233	21
334-E	長野	53	2,245	131	82	49
334	計	445	19,750	1,304	1,052	252
335-A	兵庫（東）	109	2,929	217	184	33
335-B	大阪・和歌山	204	6,673	479	491	-12
335-C	滋賀・京都・奈良	122	4,357	240	249	-9
335-D	兵庫（西）	67	2,243	209	105	104
335	計	502	16,202	1,145	1,029	116
336-A	徳島・高知・香川・愛媛	155	6,116	408	471	-63
336-B	鳥取・岡山	99	3,466	208	282	-74
336-C	広島	104	3,905	261	263	-2
336-D	島根・山口	105	3,465	240	272	-32
336	計	463	16,952	1,117	1,288	-171
337-A	福岡・長崎	118	4,753	343	327	16
337-B	大分・宮崎	81	2,561	200	224	-24
337-C	佐賀・長崎	84	3,059	235	292	-57
337-D	熊本・鹿児島・沖縄	143	4,306	358	423	-65
337	計	426	14,679	1,136	1,266	-130
総計		3,356	112,955	8,733	7,666	1,067
世界のライオンズの		7.4%	8.5%			

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2009.4.30　国際協会集計

ライオンズ国または領域	205
世界のクラブ数	45,321
世界の会員数	1,330,070
期首からの増減	24,449

国	クラブ数	会員数	期首から の増減
アメリカ	12,731	376,155	-5,521
インド	5,469	175,609	18,163
韓国	2,013	85,979	2,355

ライオン誌7月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費76円
2009年(平成21年)6月20日発行　毎月1回20日発行　第52巻第1号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階　Tel 03-3542-9571
印刷所　共同印刷株式会社

世界中の子どもたちの笑顔が見たい！

300 W 22ND STREET, OAK BROOK, IL 60523-8842, USA
Phone: 630-571-5466　Fax: 630-571-5735
E-mail: lcif@lionsclubs.org
http://www.lionsclubs.org/JA/content/lions_lcif.shtml